

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A101 ○村田 未果 <sup>1</sup> ・飯田 博之 <sup>1</sup> ・秋月 岳 <sup>2</sup> (農研機構 野花研・ <sup>2</sup> 農研機構 九沖農研) 市販人工飼料を用いたツマジロクサヨトウの効率的な飼育法 <sup>1</sup>					
9:15	A102 ○秋月 岳 <sup>1</sup> ・藤井 智久 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> ・村田 未果 <sup>2</sup> (農研機構九州沖縄農業研究センター・ <sup>2</sup> 農研機構野菜花き研究部門) 市販人工飼料を用いたツマジロクサヨトウの効率的な飼育法 <sup>2</sup>		C102 ○長 泰行 <sup>1</sup> (千葉大学・園芸学研究科) 卵捕食者によって誘導されるミヤコガブリダニの托卵			F102 ○比嘉 真太 <sup>1</sup> ・松山 隆志 <sup>1</sup> (沖縄農研セ) X線照射がウリミバエの妊娠性、生存率及び雄の交尾競争力に及ぼす影響
9:30	A103 ○米津 聰浩 <sup>1</sup> ・下村 文那 <sup>1</sup> ・田村 悠 <sup>2</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> (高知農技セ・ <sup>2</sup> 高知県農業担い手支援課) 施設ビーマンのアザミウマ類に対するプロヒドロジャスモン処理の防除効果	B103 ○松谷 広志 <sup>1</sup> ・加藤 良晃 <sup>2</sup> ・田中 利治 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>4</sup> (四日市市立日永小・ <sup>2</sup> BASF・ <sup>3</sup> 名大・農国セ・ <sup>4</sup> 皇學館大・教育) アワトウ体腔中の循環血球であるhyper-spread cellの維持と供給源について	C103 ○堀江 友哉 <sup>1</sup> ・矢野 修一 <sup>1</sup> (京大院・農・生態情報) セクハラをめぐるナミハダニ雌雄の攻防が空間分布を広げる	D103 ○小西 麻結 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> ・矢野 修一 <sup>2</sup> (京工織大院・応生・ <sup>2</sup> 京大院・農・生態情報) 痕跡成分察知で未然に回避・カンザワハダニのアリ対策の仕組み	E103 ○萬屋 宏 <sup>1</sup> ・加嶋 崇之 <sup>2</sup> ・須藤 正彬 <sup>1</sup> ・佐藤 安志 <sup>1</sup> (農研機構 果樹茶業研究部門・ <sup>2</sup> 石原産業株式会社) 園場におけるアセチル化グリセリドのチャノミドリヒメヨコバイに対する防除効果の検証－特に希釈倍率と秋芽時期の検証	F103 ○光永 貴之 <sup>1</sup> ・村上 理都子 <sup>1</sup> ・有本 誠 <sup>1</sup> ・長坂 幸吉 <sup>1</sup> (農研機構中央農業研究センター) ニホンアブラハチによる施設ナスのワタアブラムシ防除
9:45	A104 ○安達 修平 <sup>1</sup> ・富高 保弘 <sup>1</sup> ・櫻井 民人 <sup>2</sup> (農研機構・九沖農研・ <sup>2</sup> 農研機構・中央農研) キュウリ苗へのプロヒドロジャスモン処理によるアザミウマ2種の定着抑制効果	B104 ○奥村 雄輝 <sup>1</sup> ・澤 友美 <sup>2</sup> ・田中 利治 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>2</sup> (鳥羽市立加茂小・ <sup>2</sup> 皇學館大・教育・ <sup>3</sup> 名大・農国セ) カリヤコマユハチの漿膜由来のテトラサイトとextraembryonic membranesによる寄主の免疫抑制および関係遺伝子の発現について	C104 ○白井 正樹 <sup>1</sup> (電力中央研究所・環境科学研究所) ヒトの接近に対するハシボソガラスの生理的反応	D104 ○長澤 淳彦 <sup>1</sup> ・加藤 大也 <sup>1</sup> ・門澤 智広 <sup>1</sup> ・松田 一寛 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> (東北大院・農) ホオズキ葉のオオニジュウヤホチの漿膜由来のテトラサイトとextraembryonic membranesによる寄主の免疫抑制および関係遺伝子の発現について	E104 ○斎藤 千温 <sup>1</sup> ・土井 誠 <sup>1</sup> ・吉崎 涼花 <sup>1</sup> (静岡県農林技術研究所) タバコカスミカメによるトマト果実への吸汁とトマト果実の色の関係	F104 ○山口 貴大 <sup>1</sup> (奈良県農研セ) イチゴにおけるワタアブラムシの簡易密度推定法の開発
10:00	A105 ○櫻井 民人 <sup>1</sup> ・安部 洋 <sup>2</sup> ・大矢 武志 <sup>3</sup> ・大西 純 <sup>1</sup> ・村上 理都子 <sup>1</sup> (農研機構・中央農業研究センター・ <sup>2</sup> 理化研究所バイオリソース研究センター・ <sup>3</sup> 神奈川県農業技術センター) タバコカスミカメの定着に対する制虫剤プロヒドロジャスモンの影響	B105 ○吉永 侑生 <sup>1,2</sup> ・東 政明 <sup>2</sup> ・小林 淳 <sup>1</sup> (山口大・院・創成科学・鳥取大・院・連合農学) カイコ幼虫消化管幹細胞の初代培養とトランスクリプトーム解析	C105 ○中野 亮 <sup>1</sup> (農研機構 果茶研) ヤガ類のコウモリ回避行動と飛翔特性	D105 ○千葉 勇輝 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> (東北大院・農) 体表ワックスの性的二型がイチゴハムシの雌の交尾行動に与える影響	E105 ○上村 香菜子 <sup>1</sup> ・伊丹 春衣 <sup>1</sup> ・平田 祐子 <sup>2</sup> ・久松 美咲 <sup>3</sup> ・野田 邓 <sup>4</sup> (福岡農林試・ <sup>2</sup> 南筑後普指セ・ <sup>3</sup> 北筑前普指セ・ <sup>4</sup> 久留米普指セ) 福岡県の促成トマトにおけるタバコカスミカメ利用体系の検討	F105 ○中井 善太 <sup>1</sup> ・清水 健 <sup>2</sup> ・大井田 寛 <sup>3</sup> ・園田 昌司 <sup>4</sup> (東京農工大連合農学研究科・ <sup>2</sup> 千葉県農林総合研究センター・ <sup>3</sup> 法政大学生命科学部・ <sup>4</sup> 宇都宮大・農学部) キイカブリダニの卵孵化に対する植物や変動温度の影響
10:15	A106 ○高梨 琢磨 <sup>1</sup> ・衣浦 晴生 <sup>1</sup> ・上地 奈美 <sup>2</sup> ・西野 浩史 <sup>3</sup> ・浦野 忠久 <sup>1</sup> ・加賀谷 悅子 <sup>1</sup> ・田村 繁明 <sup>1</sup> ・蔭山 健介 <sup>4</sup> (森林総研・ <sup>2</sup> 農研機構果茶研・ <sup>3</sup> 北海道大・ <sup>4</sup> 埼玉大) 振動によるクビアカツヤカミキリの行動制御機構-成虫・幼虫の室内試験	B106 ○大門 高明 <sup>1</sup> ・Koyama Takashi <sup>2</sup> ・Mirth Christen <sup>3</sup> (京都大学大学院農学研究科・ <sup>2</sup> Univ. of Copenhagen・ <sup>3</sup> Monash Univ.) カイコの眠性決定機構の解明	C106 ○伊藤 和也 <sup>1,2</sup> ・矢野 修一 <sup>3,2</sup> (京大・ <sup>2</sup> 農・ <sup>3</sup> 京大・院) コナガとアリの攻防	D106 ○宇賀神 篤 <sup>1</sup> ・尾崎 克久 <sup>1</sup> (JT生命誌研究館) ナミアゲハの前肢に発現する味覚関連遺伝子群の局在パターン	E106 ○上里 卓己 <sup>1</sup> ・秋田 愛子 <sup>1</sup> (沖縄県農業研究センター) オクラほ場周辺に天敵温存植物を植栽することによるフタテンミドリヒメヨコバイ <i>Amrasca biguttula</i> (Ishida) の発生に与える影響	F106 ○角 菜津子 <sup>1</sup> ・澤村 信生 <sup>1</sup> (島根県農業技術センター) 施設ブドウ棚上へのミスト設置がカブリダニ類へ及ぼす影響について
10:30	A107 ○衣浦 晴生 <sup>1</sup> ・高梨 琢磨 <sup>1</sup> ・小野寺 隆 <sup>2</sup> ・田山 健 <sup>2</sup> ・金子 修治 <sup>3</sup> ・山本 優一 <sup>3</sup> (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所・ <sup>2</sup> 東北特殊鋼株式会社・ <sup>3</sup> 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所) 振動によるクビアカツヤカミキリの行動制御に基づく防除-野外幼虫試験	B107 ○粥川 琢己 <sup>1</sup> ・古田 賢次郎 <sup>1</sup> ・米須 清明 <sup>2</sup> ・岡部 隆義 <sup>2</sup> (農研機構・生物機能・ <sup>2</sup> 東大・創薬機構) 培養細胞系を用いた大規模スクリーニングから得られた新規幼若ホルモニアゴニスト	C107 ○伊藤 裕香 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> (関西学院大学・院・理工) アリは聖徳太子になれるのか? 這しるベフェロモン追従がアリの記憶形成に与える影響	D107 ○西田 律夫 <sup>1</sup> ・河野 伸二 <sup>2</sup> ・比嘉 真太 <sup>2</sup> ・親富祖 明 <sup>2</sup> ・松山 隆志 <sup>2</sup> ・大野 慧 <sup>3</sup> ・小野 肇 <sup>3</sup> (1. 京都市、2. 沖縄県農研センター、3. 京大院農) ナスミバエの雄直腸フェロモン腺に含まれる雌誘引成分の探索	E107 ○吉田 達也 <sup>1</sup> ・内山 徹 <sup>1</sup> (静岡茶研センター) 茶園におけるカブリダニ類個体数の季節変動	F107 ○矢野 栄二 <sup>1</sup> (京都大学生態学研究センター) タバコカスミカメの地中海系統と我が国の系統の生物的防除資材としての比較
10:45	A108 ○弘岡 拓人 <sup>1</sup> ・増田 吉彦 <sup>1</sup> (和歌山果樹試かき・もも研) クビアカツヤカミキリの接ぎ木テープを利用した産卵誘発法と各種薬剤の防除効果	B108 ○董 笠 <sup>1</sup> ・沼田 英治 <sup>1</sup> ・伊藤 千絵 <sup>1</sup> ・村松 伸樹 <sup>1</sup> (京大・院理) ホソヘリカスミの <i>Krüppel homolog</i> /遺伝子は幼虫形質を維持するはたらきをもつ	C108 ○森津 悠貴 <sup>1</sup> ・矢口 南 <sup>1</sup> ・山口 勝司 <sup>2</sup> ・重信 秀治 <sup>2</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> (関西学院大学・ <sup>2</sup> 基礎生物学研究所) シジミチヨウとの共生がアリ脳の遺伝子発現に与える影響	D108 ○田端 純 <sup>1</sup> ・手柴 真弓 <sup>2</sup> (農研機構・ <sup>2</sup> 福岡県農総試) 交信攪乱に伴う交尾遅延がフジコナカイガラムシの繁殖に与える影響	E108 ○佐藤 安志 <sup>1</sup> ・石島 力 <sup>2</sup> ・須藤 正彬 <sup>1</sup> ・萬屋 宏 <sup>1</sup> (農研機構果茶研・金谷・ <sup>2</sup> 農研機構中央農研) クワシロカイガラムシ散水防除のための孵化時期予測	F108 ○川田 千瑛 <sup>1</sup> ・佃 晋太朗 <sup>1</sup> ・藤村 耕一 <sup>2</sup> ・津田 遼平 <sup>2</sup> (香川農試・ <sup>2</sup> 中譜普及センター) 香川県施設栽培ミニトマトにおけるタバコカスミカメ利用の検討

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:00	<b>A109</b> ○中西 友章 <sup>1</sup> ・中野 昭雄 <sup>1</sup> （徳島県農総技センター）モモの切枝を用いたクビアカツヤカミキリの成虫及び卵に対する薬剤効果試験	<b>B109</b> ○萩原 佳輔 <sup>1</sup> ・木村 将大 <sup>1</sup> ・小山 文隆 <sup>1</sup> ・加藤 学 <sup>2</sup> ・景山 心悟 <sup>2</sup> ・生田 智樹 <sup>2</sup> ・松野研司 <sup>1</sup> ・大野 修 <sup>1</sup> （工学院大学先進工 <sup>2</sup> （株）山田養蜂場）キイロスズメバチ由来キチナーゼ阻害物質の単離と機能解析	<b>C109</b> ○前野 浩太郎 <sup>1</sup> （国際農研）サハラ砂漠におけるサバクトビバツタ幼虫の体温調節行動とその意義	<b>D109</b> ○宮本 隆典 <sup>1</sup> ・田端 純 <sup>2</sup> ・戒能 洋一 <sup>1</sup> （筑波大・生命環境・農研機構）チャノコカクモンハマキの性フェロモン源定位飛翔行動におよぼす複数LEDの点滅パターン	<b>E109</b> ○須藤 正彬 <sup>1</sup> ・佐藤 安志 <sup>1</sup> ・萬屋 宏 <sup>1</sup> （農研機構 茶病害虫）僕たちのナガチャコガ不成虫防除技術の開発が上手く行かない理由（わけ）	<b>F109</b> ○大鷲 友多 <sup>1</sup> ・安部 順一朗 <sup>1</sup> （農研機構 西日本農業研究センター）ブラインシリンド卵を使用した代替餌資材がバコカスミカメの定着・増殖に与える影響
11:15	<b>A110</b> ○中野 昭雄 <sup>1</sup> ・中西 友章 <sup>1</sup> （徳島農総技セ）フェロモンと糖酢液の併用によるモモ園におけるクビアカツヤカミキリの誘殺推移	<b>B110</b> ○乾 智洋 <sup>1</sup> ・山下 大志 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> （京都大学・農学研究科）蛹変態の鍵伝伝子Broad-Complexの翅原基特異的な発現制御機構	<b>C110</b> ○岡田 龍一 <sup>1</sup> ・山崎 理正 <sup>2</sup> ・伊東 康人 <sup>3</sup> （神戸大学大学院理学研究科生物学専攻）・京都大学農学部 <sup>3</sup> ・兵庫県立農林水産技術総合センター）カシノナガキクイムシにおける嗅覚 <sup>1</sup> 次中板の構造と集合フェロモンの情報処理機構	<b>D110</b> ○中 秀司 <sup>1</sup> ・松井 悠樹 <sup>2</sup> ・服部 夏実 <sup>3</sup> ・青木 一宰 <sup>1</sup> ・Miriam F. Cooperband <sup>4</sup> （鳥取大・農 <sup>2</sup> 鳥取大・連農 <sup>3</sup> 鳥取大・院持 <sup>4</sup> USDA-APHIS）タイリクマツカレハ及びオキナワマツカレハの性フェロモン（予報）	<b>E111</b> ○駒形 泰之 <sup>1</sup> ・大江 高穂 <sup>1</sup> ・閔根 崇行 <sup>1</sup> （宮城県農業・園芸総合研究所）リンゴ園において繁茂した下草は殺虫剤による地表徘徊性クモ類の個体数減少を緩和する	<b>F110</b> ○中野 亮平 <sup>1,2</sup> ・守田 大樹 <sup>1</sup> ・岡本 雄太 <sup>1</sup> ・藤原 彩夏 <sup>1</sup> ・山中 武彦 <sup>3</sup> ・安達 鉄矢 <sup>4</sup> （宮崎大学・農 <sup>2</sup> 静岡県・農研機構 <sup>4</sup> ・宮崎大学・TT）3種天敵温存植物およびトマトを餌としたタバコカスミカメの繁殖能力の比較
11:30	<b>A111</b> ○砂村 栄力 <sup>1</sup> ・田村 繁明 <sup>1</sup> ・浦野 忠久 <sup>1</sup> ・加賀谷 悅子 <sup>1</sup> （森林総合研究所）日本在来アリ類による外来のクビアカツヤカミキリ卵および卵化幼虫の捕食	<b>B111</b> ○宮崎 智史 <sup>1</sup> ・林 良信 <sup>2</sup> ・山口 勝司 <sup>3</sup> ・重信 秀治 <sup>3</sup> （玉川大院・農 <sup>2</sup> 慶應義塾大・法 <sup>3</sup> 基生研・生物機能）有翅女王と無翅女王を有するカドフシアリを対象としたRAD-seqによるゲノムワイド関連解析	<b>C111</b> ○日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・池川 雄亮 <sup>1,2,3</sup> ・木間 淳 <sup>1,2,3</sup> （琉球産業（株）・沖縄県病害虫防除技術センター・琉球大学農学部）とても奇妙なイモゾウムシ雌の交尾間隔のクセ	<b>D111</b> ○松井 悠樹 <sup>1</sup> ・龍 美沙紀 <sup>2</sup> ・藤野 あぐり <sup>2</sup> ・三田村 葉 <sup>2</sup> ・青木 一宰 <sup>3</sup> ・中 秀司 <sup>2</sup> （鳥取大学大学院連合農学研究科 <sup>2</sup> ・鳥取大学農学部 <sup>3</sup> ・日本蝶類学会）日本産ノマイガ類における“Hybrid type”性フェロモンの普遍性	<b>E111</b> ○城田 安幸 <sup>1</sup> ・佐藤 悠平 <sup>1</sup> ・城田 創 <sup>1</sup> （医果同源りんご機能研）有機認証を取得したりんご園に於けるアナグマ、ツキノワグマ、テンなどの加害	<b>F111</b> ○世古 智一 <sup>1</sup> （農研機構）タイリクヒメナカメムシにおいて、歩行活動量に対する人為選抜が生存や繁殖に及ぼす影響の評価

2021年3月24日(水) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:15	A112 ○青木 隆夫 <sup>1</sup> ・中野 元文 <sup>1</sup> ・深津 浩介 <sup>1</sup> ・藤岡 伸祐 <sup>1</sup> (日本農業株式会社) 新規ウンカ力防除剤ベンズビリモキサン(オーケストラ <sup>®</sup> )に関する研究(第6報) —ウンカ類に対する基本性能—	B112 竜 佳苗 <sup>1</sup> ・山本 雅信 <sup>1</sup> ・Noureldin Abuelfadl Ghazy <sup>1</sup> ・鈴木 文詞 <sup>1</sup> (東京農工大学・大学院BASE) ナミハダニにおけるカロトノイド類の生合成経路と機能	C112 ○佐久間 知佐子 <sup>1,2</sup> ・嘉穂 洋陸 <sup>1,2</sup> (慈恵医大・熱帯医学・慈恵医大・衛生動物学研究セ) 蚊の吸血を正に制御する味覚受容体Gr5の機能解析	D112 ○細川 貴弘 <sup>1</sup> ・今西 萌美 <sup>2</sup> (九大・理 <sup>3</sup> ・九大・システム生命) チャバネアオカムシの野外集団では共生細菌の置換が進行しているか?: 10年前と現在の比較	E112 ○下八川 裕司 <sup>1</sup> ・米津 聰浩 <sup>1</sup> ・中崎 智之 <sup>2</sup> ・梅原 健司 <sup>3</sup> ・広瀬 拓也 <sup>4</sup> ・佐藤 敦彦 <sup>2,5</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> (高知県農業技術センター <sup>1</sup> ・高知県須崎農業振興センター <sup>2</sup> ・JA土佐くろしお <sup>3</sup> ・アリスター・ライフサイエンス株式会社 <sup>4</sup> ・高知県農業政策課 <sup>5</sup> ) カブリダニ類を利用して促成作型施設ミョウガに発生するナミハダニおよびモトジョアザミウマの防除	F112 島田 裕子 <sup>1,2</sup> ・上山 拓己 <sup>3</sup> ・田中 裕之 <sup>4</sup> ・豊田 敦 <sup>5</sup> ・伊藤 武彦 <sup>4</sup> ・丹羽 隆介 <sup>1</sup> (筑波大・TARAセ <sup>2</sup> ・JST・さきがけ <sup>3</sup> ・筑波大・生命環境・東工大・生命理工・遺伝研・比較ゲノム解析) ショウジョウバエを宿主とする内部寄生蜂Asobara japonicaのゲノム解析
15:30	A113 ○深津 浩介 <sup>1</sup> ・中野 元文 <sup>1</sup> ・青木 隆夫 <sup>1</sup> (日本農業株式会社) 新規ウンカ力防除剤ベンズビリモキサン(オーケストラ <sup>®</sup> )に関する研究(第7報) —トビイロウンカに対する処理時期別の茎葉散布効果—	B113 ○立石 康介 <sup>1</sup> ・渡邊 崇之 <sup>2</sup> ・西野 浩史 <sup>3</sup> ・水波 誠 <sup>1</sup> ・渡邊 英博 <sup>1</sup> (福岡大・理・地球圈・総研大・先導科学・北海道大・電子研・北海道大・理院) ワモンゴキブリの嗅覚共受容体(Orco)の同定と機能解析	C113 ○宮崎 洋祐 <sup>1</sup> ・黒木 出 <sup>2</sup> ・田中 一裕 <sup>3</sup> ・渡康彥 <sup>2</sup> (芦屋大・経営教育・芦屋大・臨床教育・宮城学院女子大・一般教育) 「湿度(しつど)」の変化に応答して現れるタマネギバエの概日羽化リズム	D113 ○高野 俊一郎 <sup>1</sup> ・後藤 恒宏 <sup>2</sup> ・林 哲也 <sup>2</sup> (九大院(農)・九大院(医)) "Candidatus Mesenet longicola" -キムネクロナガハムシに感染し細胞質不和合(CI)を引き起こす新規細菌	E113 ○有本 誠 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>1,3</sup> ・長坂 幸吉 <sup>1</sup> ・小俣 良介 <sup>2,4</sup> ・岩瀬 亮三郎 <sup>2</sup> (農研機構 中央農研・埼玉農技研・現在: 京大院農・現在:埼玉茶研) 野外に設置した黄色粘着板上のネギネクロバネキノバエ成虫の放置期間と種特異的プライマーを用いたPCR成功率との関係	F113 ○保原 佳明 <sup>1</sup> ・塙田 森生 <sup>1</sup> (三重大学) アワダチソウグンバイの卵寄生蜂Anagrus virginiaeの産卵特性
15:45	A114 ○松原 成隆 <sup>1</sup> ・島内 円夏 <sup>1</sup> ・大林 崇 <sup>1</sup> ・福澤 麻衣 <sup>1</sup> ・野村 路一 <sup>1</sup> ・直井 敦子 <sup>1</sup> (三井化学アグロ(株)) 新規殺虫剤プロフレア <sup>®</sup> SCの葉菜類主要チョウ目害虫に対する実用性	B114 ○松山 潤 <sup>1</sup> ・大出 高弘 <sup>2</sup> (京都大学・農学部・京都大学・大学院農学研究科) フタホシコオロギの触角場形成に関するホメオボックス遺伝子の発見	C114 ○網野 海 <sup>1</sup> ・松尾 隆嗣 <sup>1</sup> (東京大学大学院・農学生命科学研究科) テナガショウジョウバエにおいて闘争経験が次の闘争にもたらす効果の検証	D114 ○大手 学 <sup>1,2</sup> ・嘉穂 洋陸 <sup>1,2</sup> (慈恵医大・熱帯医学・慈恵医大・衛生動物セ) ボルバキアによるデングウイルスRNAの制御	E114 ○城塚 可奈子 <sup>1</sup> ・金子 修治 <sup>1</sup> ・柴尾 学 <sup>1</sup> (地大・大阪府立環境農林水産総合研究所) 施設抑制キュウリ(抑制栽培)における赤色LED光照射および赤色防虫ネットの展張によるミニキロアザミウマの防除効果	F114 ○西 大海 <sup>1</sup> ・松岡 拓 <sup>2</sup> ・青木 智佐 <sup>1</sup> (九大院農・九大院生資環) 昆虫寄生菌のミカンキロアザミウマに対する病原性と土壌混合による影響
16:00	A115 ○島内 円夏 <sup>1</sup> ・松原 成隆 <sup>1</sup> ・大林 崇 <sup>1</sup> ・福澤 麻衣 <sup>1</sup> ・野村 路一 <sup>1</sup> ・直井 敦子 <sup>1</sup> (三井化学アグロ(株)) 新規殺虫剤プロフレア <sup>®</sup> SCのキスジノミハムシに対する実用性	B115 ○大出 高弘 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> (京大・院農) hyPBaseを用いた高効率での遺伝子組換えコオロギの作出	C115 ○上原 拓也 <sup>1</sup> ・霜田 政美 <sup>1</sup> (農研機構・生物研) タバコカスミカメのゲノム育種に向けたトランスクリプトーム解析	D115 ○陰山 大輔 <sup>1</sup> ・春本 敏之 <sup>2</sup> ・藤原 亜希子 <sup>4</sup> ・長峯 啓佑 <sup>1</sup> ・杉本 貴史 <sup>1</sup> ・上樂 明也 <sup>1</sup> ・和多田 正義 <sup>3</sup> (農研機構・生物機能・京大・白眉センター・愛媛大・理学部・群馬大・食センター) ショウジョウバエのオスを殺すウイルス: 原因遺伝子の発見	E115 ○田中 雅也 <sup>1</sup> ・八瀬 順也 <sup>1</sup> ・神頭 武嗣 <sup>1</sup> ・内橋 嘉一 <sup>1</sup> ・富原 工弥 <sup>2</sup> ・刑部 正博 <sup>2</sup> (兵庫農技総セ・京大院農・生態情報) UV法(UV照射+光反射シート)と天敵力ブリダニの併用によるハダニ抑制効果	F115 ○江川 大智 <sup>1</sup> ・鈴木 翔太 <sup>1</sup> ・西脇 寿 <sup>1</sup> (愛媛大学農学研究科) 枯草菌の生産する殺虫成分
16:15	A116 ○小笠原 宏実 <sup>1</sup> ・船田 剛玄 <sup>1</sup> (シンジェンタジャパン) テフルトリノ0.5%粒剤(フォース <sup>®</sup> 粒剤)のキスジノミハムシに対する作用性と本種多発生時の体系防除の有効性	B116 ○中西瑛太 <sup>1</sup> ・Richard CORNETTE <sup>2</sup> ・新井 智彦 <sup>1</sup> ・吉田 祐貴 <sup>3,4</sup> ・徳本 翔子 <sup>1</sup> ・宮田 佑吾 <sup>2</sup> ・Oleg GUSEV <sup>5,6</sup> ・黄川田 隆洋 <sup>1,2</sup> (東大・院・新領域・先端生命・農研機構・生物研・慶大・院・政策・メティア・慶大・先端生命研・理研・カザン大) 強酸性湖に生息するサンユスリカ(Chironomus acerbipilus Tokunaga)のゲノム解析	C116 ○吉田 昂樹 <sup>1</sup> ・中村 傑高 <sup>1</sup> ・岩谷 和史 <sup>1</sup> (福島県農業総合センター・果樹研究所) 自然受粉のみで栽培しているリンゴ園の訪花昆虫相から受粉コスト軽減の可能性を模索する	D116 ○安佛 尚志 <sup>1,2,3</sup> ・西川 洋平 <sup>1,3</sup> ・小川 雅人 <sup>1,4</sup> ・井手 卓吾 <sup>1,4</sup> ・相川 拓也 <sup>5</sup> ・竹山 春子 <sup>1,3,4,6</sup> (産総研・早大OIL <sup>2</sup> ・産総研・生物プロセス <sup>3</sup> ・早大・ナノライフ創研 <sup>4</sup> ・早大・先進理工・森林総研・東北 <sup>5</sup> ・早大・先進生命活動研) 微小液滴を用いたシングルセル技術による難培養性昆虫共生細菌の全ゲノム解析	E116 ○朝大 真喜子 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>1</sup> ・中野 昭雄 <sup>2</sup> (石原産業中央研究所・徳島農総技センター) スワルパン・カーネ <sup>®</sup> の改良へ新製剤の基本特性と現地試験での評価~	F116 ○佐藤 大樹 <sup>1</sup> (森林総合研究所) 子囊菌系昆虫病原菌の学名の現状について
16:30	A117 ○山下 雄大 <sup>1</sup> ・青木 隆夫 <sup>1</sup> ・藤岡 伸祐 <sup>1</sup> (日本農業株式会社) ピリフルキナゾン(コルト <sup>®</sup> )に関する研究(第7報) —ネギハモグリバエに対する作用特性—	B117 ○中野 文葉 <sup>1</sup> ・青木 不学 <sup>1</sup> ・鈴木 雅京 <sup>1</sup> (東大・院・新領域・先端生命) doublesex遺伝子の性的二型発現に着目したマイマイガの性決定時期の特定	C117 市川 葵 <sup>2</sup> ・池田 基絵 <sup>2</sup> ・後藤 慎介 <sup>1</sup> (大阪市立大学・大学院理学研究科・大阪市立大学・理学部) 授粉昆虫ヒロズキンバエの低温保存と成虫のパフォーマンス	D117 ○佐藤 嘉紀 <sup>1</sup> ・長峯 啓佑 <sup>2</sup> ・新谷 嘉紀 <sup>3</sup> ・菅野 善明 <sup>1</sup> ・足達 太郎 <sup>4</sup> (東京農大院・農研機構・生物研・南九州大・環境園芸・東京農大) ハスモンヨトウから見つかった <i>Flaviridae</i> ウイルス様配列の系統解析および伝播性の解明	E117 ○吉崎 涼花 <sup>1</sup> ・土井 誠 <sup>1</sup> ・齊藤 千温 <sup>1</sup> (静岡県農林技術研究所) 温室メロンにおける土着カブリダニの薬剤感受性と影響期間	F117 田中 俊佑 <sup>1</sup> ・新井 大 <sup>1</sup> ・Kitalong Christopher <sup>2</sup> ・Marshall Sean <sup>3</sup> ・井上 真紀 <sup>1</sup> ・仲井 まさか <sup>1</sup> (東京農工大学・Palau Community College・AgResearch) バラオ産タイワンカブトムシからPCRで検出されたヌディウイルスは顕性感染だった

2021年3月24日(水) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:45	A118 ○高安 範・加嶋 崇之 <sup>1</sup> (石原産業株式会社) ベミデタッヂ <sup>®</sup> の二番茶でのチャノミドリヒメヨコバイに対する適用性評価			D118 ○新谷 喜紀 <sup>1</sup> ・岡本 悠吾 <sup>1</sup> ・今村 菖華 <sup>1</sup> ・菅野 善明 <sup>1</sup> ・寺尾 美里 <sup>2</sup> ・佐藤 嘉紀 <sup>3</sup> ・長峯 啓佑 <sup>1</sup> ・陰山 大輔 <sup>4</sup> (南九州大・環境園芸・ <sup>2</sup> 南九州大・フィールドセンター・ <sup>3</sup> 東京農大院・ <sup>4</sup> 農研機構・生物研) ハスモンヨトウにおける性比異常現象の特性と原因ウイルスの野外分布	E118 ○石川 俊夫・山口 晃一 <sup>1</sup> ・森 光太郎 <sup>1</sup> (石原産業(株)中央研究所) バラのミヤコパンカーラによるハダニ防除効果の数理生物学的解析	F118 ○中原 波留加 <sup>1</sup> ・西 大海 <sup>2</sup> ・青木 智佐 <sup>2</sup> (九大院生資源・九大院農) 昆虫寄生菌製剤由来の菌株のナミハダニに対する病原力
17:00	A119 ○藤原 亜希子 <sup>1,3</sup> ・田中くるみ <sup>1,2</sup> ・小川 健司 <sup>4</sup> ・土田努 <sup>5</sup> (群馬大学・食センター・ <sup>2</sup> 群馬大院・理工学府・ <sup>3</sup> 理研・CSRS・ <sup>4</sup> 日本大学・生物資源・ <sup>5</sup> 富山大学・学術研究部) タバココナジラミ内部共生細菌に着目した、TYLCV媒介防除資材の開発に向けて			D119 ○長峯 啓佑 <sup>1</sup> ・菅野 善明 <sup>2</sup> ・佐藤 嘉紀 <sup>4</sup> ・寺尾 美里 <sup>3</sup> ・陰山 大輔 <sup>1</sup> ・新谷 喜紀 <sup>2</sup> (農研機構・生物研・南九州大・環境園芸・ <sup>3</sup> 南九州大・フィールドセンター・ <sup>4</sup> 東京農大院) ハスモンヨトウの性比異常を引き起こすRNAウイルスの探索と系統解析	E119 ○神山 光子 <sup>1</sup> (熊本県農業研究センター果樹研究所) ハウスマカンにおけるスワルパンカーラによるミカンハダニ防除効果	

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A201 ○飯田 博之 <sup>1</sup> ・佐々木 彩乃 <sup>2</sup> ・西野 実 <sup>2</sup> ・田中 千晴 <sup>2</sup> ・須藤 正彬 <sup>1</sup> ・山中 武彦 <sup>1</sup> ・山村 光司 <sup>1</sup> ・豊島 真吾 <sup>1</sup> （農研機構・三重県農業研究所）ネギアザミウマの薬剤抵抗性管理技術の開発・その1 野外圃場における薬剤散布方法と薬剤抵抗性遺伝子頻度の推移の関係	B201 ○山本 美美子 <sup>1</sup> ・横山 岳 <sup>2</sup> ・青木 不学 <sup>1</sup> ・鈴木 雅京 <sup>1</sup> （東大院・新領域・先端生命・東京農工大学・農学部）雌雄モザイク体の性分化はどこまで細胞自律的か? scRNA-seqによる検証	C201 ○見上 孝 <sup>1</sup> ・木村 澄 <sup>2</sup> ・荻原 麻理 <sup>2</sup> ・森本 信生 <sup>2</sup> ・芳山 三喜雄 <sup>2</sup> （生物めぐみ研究所・農研機構・畜産研）セイヨウミツバチから採取した精液の常温保存法の検討(2)	D201 ○前岡 歩 <sup>1</sup> ・刑部 正博 <sup>1</sup> （京都大学・農学研究科）SDHBとSDHCの変異の併存によるcomplex II阻害剤高度抵抗性の発現	E201 ○田中 彩友美 <sup>1</sup> ・村田 未果 <sup>2</sup> ・水谷 信夫 <sup>1</sup> ・飯田 博之 <sup>2</sup> （農研機構・九沖研・農研機構・野花研）ツマジロクサヨウの発育に対する4種寄主作物の適合性	F201 ○竹内 博昭 <sup>1</sup> ・遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・渋谷 和樹 <sup>1</sup> ・高橋 明彦 <sup>1</sup> （農研機構・中央農研）8月上旬の降水量からマシングイガの羽化時期の遅延を推定できる
9:15	A202 ○佐々木 彩乃 <sup>1</sup> ・西野 実 <sup>1</sup> ・田中 千晴 <sup>1</sup> ・飯田 博之 <sup>2</sup> ・豊島 真吾 <sup>1</sup> （三重県農業研究所・農研機構）ネギアザミウマの薬剤抵抗性管理技術の開発・その2 露地ネギ圃場での薬剤散布体系の違いによる被害抑制効果と薬剤感受性への影響	B202 ○Meryem Behri <sup>1</sup> ・DeMar Taylor <sup>1</sup> （University of Tsukuba）Regulation of Vitellogenin Receptor by Target of Rapamycin in <i>Ornithodoros moubata</i> (Acar: Argasidae)	C202 ○荻原 麻理 <sup>1</sup> ・芳山 三喜雄 <sup>1</sup> ・森本 信生 <sup>1</sup> ・中村 純 <sup>2</sup> ・木村 澄 <sup>2</sup> （農研機構・畜産研究所・玉川大学・農学部・先端食農学科）日本国内のミツバチに寄生するミツバチヘギイタダニの系統解析	D202 ○山本 敦司 <sup>1,3</sup> ・土井 誠 <sup>2,3</sup> （日本曹達（株）・静岡農研・農林害虫防除研・抵抗性対策TF）殺虫剤抵抗性リスク評価表: そのリスク評価基準と作成事例	E202 ○本田 善之 <sup>1</sup> ・溝部 信二 <sup>1</sup> （山口県農林総合技術センター）山口県におけるイネカメムシの生態と防除	F202 ○萱場 亘起 <sup>1</sup> ・鯫島 良次 <sup>1</sup> （北海道大学・農学研究院）害虫発生予測に入力する平年の気象データに関する研究
9:30	A203 ○横山 泰之 <sup>1</sup> ・堀川 拓未 <sup>1</sup> ・土田 祥子 <sup>1</sup> ・宮嶋 一郎 <sup>1</sup> ・黒田 智久 <sup>1</sup> ・松澤 清二郎 <sup>2</sup> ・佐藤 秀明 <sup>3,1</sup> ・棚橋 恵 <sup>4,1</sup> （新潟農総研・園芸研・村上農林振興部・新潟農総研・佐渡農技・新潟経営）ネギ栽培におけるネギアザミウマ産雄単為生殖型に対する各種殺虫剤の防除効果	B203 ○池田 健人 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>2</sup> ・塙見 邦博 <sup>3</sup> ・宇高 寛子 <sup>1</sup> ・沼田 英治 <sup>1</sup> （京都大学大学院理学研究科・京都大学大学院農学研究科・信州大学・織維学部）カイコガの光周期に対するperiod遺伝子ノックアウトの効果	C203 ○渡邊 智大 <sup>1</sup> ・佐々木 謙 <sup>1,2</sup> （玉川大・院・農・玉川大・農）ミツバチ雄における幼若ホルモンとチロシン摂取による脳内ドーパミン増加の仕組み	D203 ○佃 晋太朗 <sup>1</sup> ・川田 千瑛 <sup>1</sup> （香川県農業試験場）香川県内のイチゴ施設におけるナミハダニ ( <i>Tetranychus urticae</i> Koch) の薬剤感受性	E203 ○矢代 敏久 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> （農研機構・九沖農研）マルチプレックスPCRによるイネカメムカ類3種の簡易識別法	F203 ○溝部 信二 <sup>1</sup> ・東浦 祥光 <sup>1</sup> （山口県農林総合技術センター）山口県におけるスマモミハバチ <i>Monocelicampa pruni</i> Wei の発生
9:45	A204 ○向井 環 <sup>1</sup> ・黒田 貴仁 <sup>1</sup> ・青木 由美 <sup>1</sup> （富山農総技）露地ネギ栽培におけるネギハモグリバエの粒剤を用いた体系防除の検討	B204 ○佐藤 瑞華 <sup>1</sup> ・池田 健人 <sup>2</sup> ・大門 高明 <sup>3</sup> ・塙見 邦博 <sup>4</sup> ・沼田 英治 <sup>2</sup> ・志賀 向子 <sup>1</sup> （大阪大学・理学研究科・京都大学・理学研究科・信州大学・織維学部）カイコガ幼虫期における光周期とperiod発現細胞	C204 ○久保 良平 <sup>1</sup> ・小野 正人 <sup>1,2</sup> （玉川大・ミツバチ科学・玉川大院・農・昆蟲機能）カリガネソウ（シソ科）の花香に含まれるトラマルハナバチの誘引物質解析	D204 ○山村 光司 <sup>1</sup> （農研機構・農環研セ）薬剤抵抗性の進化を阻止するための最適な薬剤散布計画	E204 ○中島 具子 <sup>1</sup> ・齋藤 瞳美 <sup>1</sup> （山形県農業総合研究センター）サイレージ用トウモロコシにおけるアカスジカスミカメの発生状況	F204 ○奥谷 恒代 <sup>1</sup> ・藤原 更紗 <sup>1</sup> （鳥取県農業試験場）ヒメトビウンガが媒介するイネ縞葉枯病が水稻品種「きぬむすめ」の収量、玄米品質および食味に及ぼす影響
10:00	A205 ○土井 誠 <sup>1</sup> ・松野 和夫 <sup>2</sup> ・片山 晴喜 <sup>1</sup> （静岡県農林技術研究所・静岡県西部農林事務所）水耕栽培の葉ネギの培地に発生するホシチヨウバエに対する温湯処理の防除効果	B205 ○本廣 千佳 <sup>1</sup> ・藤原 一平 <sup>1</sup> ・志賀 向子 <sup>1</sup> （大阪大・院理・生物科学）ルリキンバエの脳における光周期機構に関する遺伝子の探索	C205 ○沓掛 磨也子 <sup>1</sup> ・柴尾 晴信 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>1</sup> （産総研・生物プロセス・筑波大・生命環境系）人工飼料飼育系を用いた社会性アラムシの兵隊分化に関わる分子機構の解明	D205 ○伊藤 悠佑 <sup>1</sup> ・下間(井尻) 悠士 <sup>1,2</sup> ・上樂 明也 <sup>3</sup> ・Van Leeuwen Thomas <sup>4</sup> ・刑部 正博 <sup>1</sup> （京大院農・道研・農研機構・生物研・ケント大学）ナミハダニにおけるビリダベン高度抵抗性を発現するPSSTとCYP392A3との相互作用	E205 ○田中 千晴 <sup>1</sup> ・佐々木 彩乃 <sup>1</sup> ・笹山 哲夫 <sup>2</sup> ・小谷 弘哉 <sup>3</sup> ・近藤 和夫 <sup>3</sup> ・西野 実 <sup>1</sup> （三重農研・三重中農普セ・九鬼産業）ミナミアカスミカメに対する薬剤散布の時期がゴマの成分品質に及ぼす影響	F205 ○亀井 幹夫 <sup>1</sup> （広島総研農技セ）深層学習を用いたトマト葉上のコナジラミ類成虫の識別
10:15	A206 ○大江 高穂 <sup>1</sup> ・関根 崇行 <sup>1</sup> ・駒形 泰之 <sup>1</sup> ・小野寺 隆一 <sup>2</sup> ・阿部 駿太 <sup>2</sup> ・高梨 琢磨 <sup>3</sup> （宮城農園研・東北特殊鋼・森林総研）振動の振幅はトマトのオンシソコナジラミ寄生密度抑制と収量増加に寄与する	B206 ○澤 友美 <sup>1</sup> ・上坂 一馬 <sup>2</sup> ・千葉 壮太郎 <sup>2</sup> ・奥村 雄輝 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>1</sup> ・田中 利治 <sup>2</sup> （皇學館大・教育・名大院・生命農・鳥羽市立加茂小） <i>C. kariyai</i> (Ck) & <i>C. ruficrus</i> (Cr) のポリドナウイルスに感染した寄主血球のRNAseq解析	C206 ○松浦 健二 <sup>1</sup> （京都大学大学院農学研究科）ヤマトシロアリの単為生殖の発見から20年、拓かれた社会生物学の領域	D206 ○藤井 智久 <sup>1</sup> ・真田 幸代 <sup>1</sup> （農研機構九州沖縄農研）トビイロウカのジノテフラン選抜系統におけるネオニコチノイド系殺虫剤に対する感受性変化	E206 ○河村 太 <sup>1</sup> ・原口 大 <sup>1</sup> ・松山 隆志 <sup>2</sup> ・日室 千尋 <sup>3,4</sup> ・本間 淳 <sup>3,4</sup> ・池川 雄亮 <sup>3,4</sup> ・佐渡 山 安常 <sup>1</sup> ・金城 邦夫 <sup>1</sup> （沖縄県病害虫防除技術センター・沖縄県農業研究センター）琉球大学農学部・津堅島におけるアリモドキゾウムシの根絶防除 -島外からの飛来ノイズ下での根絶-	F206 ○下村 文那 <sup>1</sup> ・武藤 美樹 <sup>1</sup> ・高山 智光 <sup>2</sup> ・杉浦 綾 <sup>2</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> （高知県農業技術センター・農研機構農業情報研究センター）学習済みCNNモデルのファインチューニングでアザミウマを分類できるか
10:30	A207 ○富原 工弥 <sup>1</sup> ・田中 雅也 <sup>1</sup> ・小野寺 隆一 <sup>2</sup> ・阿部 駿太 <sup>2</sup> ・高梨 琢磨 <sup>3</sup> （兵庫農技総セ・東北特殊鋼・森林総研）トマトにおける振動刺激を利用したコナジラミ類防除の試み	B207 ○Achmad Gazali Gazali <sup>1</sup> ・Ardhiani Kurnia Hidayanti Hidayanti <sup>1</sup> ・Yohsuke TAGAMI TAGAM <sup>2</sup> （Gifu University・Shizuoka University）Autophagy Inducers and Inhibitors Reveal the Relationship among Autophagy, <i>Wolbachia</i> and Rice Stripe Virus within <i>Laodelphax striatellus</i> (Hemiptera: Delphacidae)	C207 ○中野 由布妃 <sup>1</sup> ・竹松 葉子 <sup>2</sup> （鳥取大学大学院連合農学研究科・山口大学大学院創成科学研究科）山口県に生息する2種のヤマトシロアリ属の同胞認識行動に対して遺伝的要因が及ぼす影響	D207 ○真田 幸代 <sup>1</sup> ・藤井 智久 <sup>1</sup> ・秋月 岳 <sup>1</sup> （農研機構九州沖縄農業研究センター）ツマジロカサヨウのアジアにおける薬剤防除対策と国内採集個体の薬剤感受性	E207 ○本間 淳 <sup>1,2,3</sup> ・安藤 さやか <sup>2</sup> （琉球産経・沖縄県防技セ・琉球大学・農学部）沖縄県に侵入したミカンコミバエ種群の形態的・遺伝的特徴と発生パターン	F207 ○金子 政夫 <sup>1</sup> （長野県野菜花き試験場）黄色粘着トランプに捕獲されたネギアザミウマ雌雄成虫の簡易識別法と予察利用の検討

2021年3月25日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:45	A208 ○黒田 貴仁 <sup>1</sup> ・向井 環 <sup>1</sup> ・青木 由美 <sup>1</sup> ('富山農総技') クモヘリカメムシ成虫に対する各種薬剤の殺虫効果	B208 ○後藤 哲雄 <sup>1</sup> ・Mohamed W. Negm <sup>2</sup> ・松田朋子 <sup>3</sup> ('流通経済大学・ <sup>2</sup> 茨城大学・ <sup>3</sup> 日本バイオデータ) <i>Panonychus</i> 属ハダニの分類の現状と問題点	C208 ○渡辺 裕文 <sup>1</sup> ・徳田 岳 <sup>2</sup> ('農研機構 生物機能利用研究部門・ <sup>2</sup> 琉球大学 热帯生物園研究センター) ヤマトシロアリゲノムの酸化還元酵素様配列から得たリコンビナントタンパクの特性		E208 ○木村 悟朗 <sup>1</sup> ('イカリ消毒株式会社) 風速がハエ・コバエ類の移動に及ぼす影響	F208 ○小俣 良介 <sup>1</sup> ('埼玉県茶業研究所') 埼玉県におけるチャドクガ <i>Euproctis pseudoconspersa</i> の多発生と60年間の発生推移
11:00	A209 ○安藤 さやか <sup>1</sup> ・本間 淳 <sup>2,3</sup> ('沖縄県病害虫防除技術センター・'琉球産経(株)・ <sup>3</sup> 琉球大学・農学部) ウリミバエ不妊虫放飼数適正化への取組	B209 ○浦入 千宗 <sup>1</sup> ・藤戸 賢史 <sup>1</sup> ・豊島 真吾 <sup>1</sup> ('農研機構野花研) ネギハモグリバエ従来系統と新系統の系統間交雑の調査	C209 ○小山 雄太郎 <sup>1</sup> ・矢口甫 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> ('関西学院大学・理工学部') ネバダオオシロアリのワーカーにおける防衛行動の柔軟な変化			F209 ○渋谷 和樹 <sup>1</sup> ・渡邊 照之 <sup>2</sup> ・小出 良平 <sup>2</sup> ・遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・竹内 博昭 <sup>1</sup> ('農研機構中央農研、 <sup>2</sup> 石川農研) コーントラップの紫外線透過率や形状がウコンノメイガの捕獲数に与える影響
11:15	A210 ○原口 大 <sup>1</sup> ・谷口 昌弘 <sup>1</sup> ・安藤 さやか <sup>1</sup> ・本間 淳 <sup>2,3</sup> ・日室 千尋 <sup>2,3</sup> ・池川 雄亮 <sup>2,3</sup> ・松山 隆志 <sup>4</sup> ・佐渡山 安常 <sup>1</sup> ('沖縄防技セ・ <sup>2</sup> 琉球産経(株)・ <sup>3</sup> 琉球大農・ <sup>4</sup> 沖縄農研セ) 近年の沖縄県におけるミカンコミバエ種群の侵入状況と対策	B210 ○香川 清彦 <sup>1</sup> ('宇都宮大学農学部) 日本におけるカナビキソウに寄生するアブラムシに関する知見の統報 その2	C210 ○川本 晴後 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> ('京工織大院・応生) クロヤマアリの新羽化成虫による同巣認識能の獲得時期			F210 ○岩田 大介 <sup>1</sup> ・高橋 和大 <sup>1</sup> ('新潟農総研作物研) ウコンノメイガの発生消長とその年次変動
11:30	A211 ○秋田 愛子 <sup>1</sup> ・亀山 健太 <sup>1</sup> ・寺村 皓平 <sup>1</sup> ・小山 裕美子 <sup>2</sup> ・喜久村 智子 <sup>3</sup> ・上里 卓己 <sup>1</sup> ('沖縄農研セ・ <sup>2</sup> 沖縄中部普及セ・ <sup>3</sup> 沖縄卸売市場) 沖縄県でのトルコギキョウ栽培におけるチャノキイロアザミウマの発生実態および粒剤・散布剤の殺虫効果					F211 ○渡邊 照之 <sup>1</sup> ・小出 良平 <sup>1</sup> ・松田 絵里子 <sup>1</sup> ・川上 郷子 <sup>1</sup> ・安達 直人 <sup>1</sup> ('石川県農林総合研究センタ農業試験場) マルチスペクトルカメラ搭載のドローンを用いたタマナギンウワバの発生分布予測の検討

2021年3月26日(金) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A301 ○山谷 克也 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> (東北大院・農) ヒストジマ力に対する青色光の殺虫効果	B301 ○大庭 伸也 <sup>1</sup> ・松本 弥優 <sup>1</sup> ・大浦 ひなた <sup>1</sup> ・吉村 愛菜 <sup>1</sup> (長崎大学・教育学部) コオイムシの卵サイズと生活史に関する個体群間比較	C301 ○星崎 杉彦 <sup>1</sup> (東大 農) 体の小さな幼虫は、大きな頭を備えているか?	D301 ○中村 晃紳 <sup>1</sup> ・鎌田 美波 <sup>2</sup> ・糸山 享 <sup>1,2</sup> (明治大学農学研究科・ <sup>2</sup> 明治大学農学部) Comparison of some characteristics related to the conservation of <i>Orius</i> spp. between the two varieties of okra	E301 ○上地 奈美 <sup>1</sup> ・三代 浩二 <sup>1</sup> (農研機構 果樹茶業研究部門) バラ科果樹4樹種におけるクビアカツヤカミキリ雌成虫の切り枝への滞在時間、および、切り枝上で産卵場所探索行動を示した時間の比較	
9:15	A302 ○小林 敦樹 <sup>1</sup> ・堀 雅敏 <sup>1</sup> (東北大院・農) 体表の光透過性がショウジョウバエの青色光耐性に与える影響	B302 ○辰巳 嘉人 <sup>1</sup> ・三田 敏治 <sup>2</sup> (九州大院・生資環・ <sup>2</sup> 九州大院・農学研究院) クロハラカマバチ单為生殖系統の分布および单為生殖化と共生細菌の関係性	C302 ○今野 浩太郎 <sup>1</sup> (農研機構 生物機能利用研究部門) モンシロチョウがキャベツに独占的に大被害を与える理由—高い比成長率による被食量増大・害虫化・競争排除	D302 ○YUDISTIRA DWI <sup>1</sup> ・佐藤 智 <sup>1</sup> (1山形大学農学部) WINTER ABUNDANCE OF FRESHWATER SNAILS AND AQUATIC ORGANISMS IN IRRIGATION CANALS	E302 ○深谷 緑 <sup>1,2</sup> ・木元 瑛那 <sup>1</sup> ・山中 康如 <sup>1</sup> ・桐山 哲 <sup>1,3</sup> ・岩田 隆太郎 <sup>1</sup> (日本大学・生物資源科学部・ <sup>2</sup> 順天堂大学・ <sup>3</sup> 富山県木材研究所) 特定外来生物クビアカツヤカミキリの産卵における寄主表面構造の選好性	
9:30	A303 ○遠藤 信幸 <sup>1</sup> ・本田 善之 <sup>2</sup> ・岩本 哲弥 <sup>2</sup> ・弘中 満太郎 <sup>3</sup> (農研機構中央農研・ <sup>2</sup> 山口農林総セ・ <sup>3</sup> 石川県立) 紫外光と緑色光の混色光源の各種昆虫に対する誘引性	B303 ○楠原 弘己 <sup>1</sup> ・上野 高敏 <sup>1</sup> (九州大学 資源生物環境科学府 天敵昆虫学研究室) 九州地方の4県6地域におけるツマグロコバイ天敵卵寄生蜂ギルドの解明	C303 ○矢野 修一 <sup>1</sup> ・小西 麻結 <sup>2</sup> ・秋野 順治 <sup>2</sup> (京大院農・生態情報・ <sup>2</sup> 京工織大院・応生) ハダニがアリの足跡を避けることの意味	D303 ○ムンタリ チャンディオナ <sup>1</sup> ・森本 春暢 <sup>1</sup> ・大西 一光 <sup>1</sup> ・小池 正徳 <sup>1</sup> ・バルタジワン <sup>2</sup> ・木下 林太郎 <sup>1</sup> ・相内 大吾 <sup>1</sup> (帯広畜産大学・ <sup>2</sup> ウィスコンシン大学マディソン校) Establishment of model plant nutrition control system and effects of plant nutrition on <i>Aphis gossypii</i> (Glover) host preference	E303 ○浦野 忠久 <sup>1</sup> (研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所) クビアカツヤカミキリ孵化幼虫飼育法の改良	
9:45	A304 ○中村 儒 <sup>1</sup> ・吉田 昂樹 <sup>1</sup> (福島県農業総合センター果樹研究所) ブドウハウス栽培における赤色防虫ネットのチャノキイロアザミウマに対する侵入抑制効果	B304 ○寺尾 美里 <sup>1,2</sup> ・徳田 誠 <sup>3,2</sup> ・新谷 喜紀 <sup>4</sup> (南九州大・フィールドセンター・ <sup>2</sup> 鹿大院・連合農業・ <sup>3</sup> 佐賀大・農・ <sup>4</sup> 南九州大・環境園芸) マメハンミョウにおける早熟変態が生み出す小さな成虫の繁殖可能性	C304 ○谷口 昌弘 <sup>1</sup> ・佐渡山 安常 <sup>1</sup> ・原口 大 <sup>1</sup> ・松山 隆志 <sup>2</sup> (沖縄県病害虫防除技術センター・ <sup>2</sup> 沖縄県農業研究センター) 沖縄県におけるナスミバエ <i>Bactrocera latifrons</i> の寄主植物の種類とその利用状況から推測される分布拡大パターン	D304 ○黒木 祥友 <sup>1</sup> ・井村 英輔 <sup>2</sup> ・Nouzova Marcela <sup>3</sup> ・松山 茂 <sup>1</sup> ・溝口 明 <sup>4</sup> ・近藤 周 <sup>5</sup> ・谷本 拓 <sup>6</sup> ・Noriega Fernando <sup>3</sup> ・丹羽 隆介 <sup>2</sup> (筑波大学生命環境科学研究所・ <sup>2</sup> 筑波大学生存ダイナミクス研究センター・ <sup>3</sup> フロリダ国際大学・ <sup>4</sup> 愛知学院大学教養部・ <sup>5</sup> 国立遺伝学研究所・ <sup>6</sup> 東北大生命科学研究科) Neuronal control of reproductive dormancy in the fruit fly <i>Drosophila melanogaster</i>	E304 ○加賀谷 悅子 <sup>1</sup> ・田村 繁明 <sup>1</sup> (森林総合研究所) Nested-PCR法を用いたクビアカツヤカミキリの検出手法	
10:00	A305 ○岩本 哲弥 <sup>1</sup> ・溝部 信二 <sup>1</sup> (山口県農林総合技術センター) 蒸熟処理によるクリ果実害虫の防除の検討	B305 ○檜垣 守男 <sup>1</sup> (農研機構・果樹茶部) ゴマダラカミキリにみられる複数の生活史型とその割合の地理的変異	C305 川井 咲 <sup>1</sup> ・○多々良 明夫 <sup>2</sup> (法政大生命・ <sup>2</sup> 静岡農林環境専門職大) ミカンキイロアザミウマとネギアザミウマの体色に与える温度の影響	D305 ○阿部 真生子 <sup>1</sup> ・丹羽 隆介 <sup>2</sup> (筑波大学大学院 理工情報生命学系 生命地球科学研究群・ <sup>2</sup> 筑波大学生存ダイナミクス研究センター) The noni fruit <i>Morinda citrifolia</i> has a beneficial effect on glucose tolerance in the fruit fly <i>Drosophila sechellia</i>		
10:15	A306 ○松山 尚生 <sup>1</sup> (和歌山県試) ミカンハダニに対する気門封鎖型薬剤の殺成虫・殺卵効果	B306 ○大林 隆司 <sup>1</sup> ・野口 貴 <sup>2</sup> ・小林 和郎 <sup>2</sup> (東京都農林総合研究センター 生産環境科・ <sup>2</sup> 東京都島しょ農林水産総合センター・ハ丈事業所) クロスジイラガの加害植物と発生消長および天敵類	C306 李 楊 <sup>1</sup> ・○秋元 信一 <sup>1</sup> (北大院農昆虫体系) 同じ植物に共存する2種のアブラムシ間の増殖競争と競争からの撤退	D306 ○Ardhiani Kurnia Hidayanti <sup>1</sup> ・Ahmad Gazali <sup>1</sup> ・Yohsuke Tagami <sup>2</sup> (UGSAS Gifu University・ <sup>2</sup> Shizuoka University) Quorum Sensing Related Chemicals Affect Cytoplasmic Incompatibility (CI) by <i>Wolbachia</i> in <i>Liriomyza trifolii</i> (Diptera: Agromyzidae)		

2021年3月26日(金) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:00	A307 ○兼田 武典 <sup>1</sup> (徳島県立農林水産総合技術支援センター) マシン油乳剤によるビワキジラミ ( <i>Cacopsylla biwa</i> ) の産卵抑制効果と被害抑制	B307 ○田渕 研・吉村 英翔 <sup>1</sup> ・上杉 龍士 <sup>1</sup> ・大江 高穂 <sup>2</sup> ・高橋 明彦 <sup>3</sup> ・舛谷 悠祐 <sup>1,4</sup> ・長谷川 利拡 <sup>1</sup> (農研機構東北農研・ <sup>2</sup> 宮城農園研・ <sup>3</sup> 農研機構中央農研・ <sup>4</sup> 岩手大院・連合農学) クモヘリカムシの北進と気象データから見た越冬可能地域の変遷	C307 ○村瀬 香 <sup>1</sup> (名古屋市立大学大学院・理学研究科) 野生動物の疾病に関する病態病理学的研究	D307 ○Phyu Phyu San <sup>1</sup> ・Midori Tuda <sup>1</sup> (Kyushu University) Effects of Wolbachia infection on life history traits in azuki bean beetle <i>Callosobruchus chinensis</i> and its parasitoids under climate change		
11:15	A308 ○内田 太陽 <sup>1</sup> ・村瀬 香 <sup>1</sup> (名古屋市立大学大学院・理学研究科) アルゼンチンアリの再分布拡大の過程とその防除方法の提言	B308 ○武藤 美樹 <sup>1</sup> ・下村 文那 <sup>1</sup> ・中石 一英 <sup>1</sup> (高知県農業技術センター) シキミに寄生するフンダニ類の発生消長と葉剤感受性	C308 ○寒河江 康太 <sup>1</sup> ・佐藤智 <sup>1</sup> (山形大学農学部) 水田のミドロ類に生息する節足動物の発生消長	D308 ○新井 大 <sup>1</sup> ・安佛 尚志 <sup>2,3,4</sup> ・西川 洋平 <sup>2,4</sup> ・小川 雅人 <sup>2,5</sup> ・細川 正人 <sup>4</sup> ・竹山 春子 <sup>4,5,2</sup> ・Lin Shiou-Ruei <sup>6</sup> ・上田 雅俊 <sup>1</sup> ・仲井 まさか <sup>1</sup> ・国見 裕久 <sup>1</sup> ・井上 真紀 <sup>1</sup> (農工大院・農・ <sup>2</sup> 産総研・早大OIL・ <sup>3</sup> 産総研・生物プロセス・早大・ナノライク創新研・ <sup>5</sup> 早大・先進理工・ <sup>6</sup> 台湾茶業改良所) License to kill males: a male-killing associated prophage WO was identified from comparisons of closely related <i>Wolbachia</i> strains in <i>Homona magnanima</i>		
11:30			C309 ○津田 みどり <sup>1</sup> ・岩瀬 俊一郎 <sup>2</sup> ・Haran Julien <sup>3</sup> ・Kebe Khadim <sup>4</sup> ・Skuhrovec Jiri <sup>5</sup> ・Sanaei Ehsan <sup>6</sup> ・辻 尚道 <sup>7</sup> (九州大学農学研究院・ <sup>2</sup> 大阪府立環境農水総研・ <sup>3</sup> INRA・ <sup>4</sup> Polytech Higher Sch Dakar・ <sup>5</sup> Crop Research Inst, Czech・ <sup>6</sup> University of Queensland・ <sup>7</sup> 九州大学生物資源環境) マメ科害虫の原産地における共生菌感染と遺伝的分化・交雑: 細胞質不和合性による防除の可能性	D309 ○Eko Andrianto <sup>1</sup> ・Shunya Kuranouchi <sup>2</sup> ・Jessica Adelaide Kapojos <sup>2</sup> ・Atsushi Kasai <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> UGSAS, Gifu University・ <sup>2</sup> Shizuoka University) <i>Wolbachia</i> in <i>Camellia</i> Spiny Whitefly, <i>Aleurocanthus camelliae</i> and its two parasitoid wasps (Hymenoptera: Aphelinidae)		
				D310 ○小西 嘉生 <sup>1</sup> ・田崎 英祐 <sup>1</sup> ・松浦 健二 <sup>1</sup> (京大院・農・昆虫生態) The end of colony: termite workers steal nitrogen source under king-absent condition		

ポスター発表（学生会員）

3月24日（水）コアタイム：13:00～15:00

3月25日（木）コアタイム：13:00～14:00

PS01	国内でブドウ属植物の葉に虫えいを形成するタマバエ類の同定 ○宗 祥史 <sup>1</sup> ・Ayman K. Elsayed <sup>2</sup> ・岩崎 晓生 <sup>3</sup> ・西脇 由恵 <sup>3</sup> ・湯川 淳一 <sup>4</sup> ・徳田 誠 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 佐賀大学・農学部・ <sup>2</sup> 東大植物園・ <sup>3</sup> 道総研中央農試・ <sup>4</sup> 九州大学）
PS02	共生細菌による腸の劇的な形態変化: Homeobox遺伝子が鍵！ ○JANG Seonghan <sup>1,2</sup> ・Mergaert Peter <sup>3</sup> ・大林 翼 <sup>4</sup> ・松浦 優 <sup>5</sup> ・菊地 義智 <sup>1,2</sup> （ <sup>1</sup> 産業技術総合研究所北海道センター・ <sup>2</sup> 北海道大学・ <sup>3</sup> CNRS・ <sup>4</sup> 農業・食品産業技術総合研究機構・ <sup>5</sup> 琉球大学）
PS03	SNPsを用いたオオヒメゴ (Parasteatoda tepidariorum) における性染色体の同定について ○笠原 良太 <sup>1</sup> ・金山 真紀 <sup>3</sup> ・秋山-小田 康子 <sup>2,4</sup> ・青木 不学 <sup>1</sup> ・小田 広樹 <sup>2,3</sup> ・鈴木 雅京 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科・ <sup>2</sup> JT生命誌館・ <sup>3</sup> 大阪大学大学院理学研究科・ <sup>4</sup> 大阪医科大学医学部）
PS04	クリタマバチの卵巢成熟に関する仮説の検証 ○鶸 亜嬌 <sup>1</sup> ・阿部 芳久 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 九大・院・地社・ <sup>2</sup> 九大・院・比文）
PS05	チャコウラナメクジと生息場所を競合する生物の探索 ○大和田 光一 <sup>1</sup> ・宇高 寛子 <sup>1</sup> （京都大学）
PS06	オキナワルリチラシの幼虫が行う毒液回収行動の役割 ○新村 瑠里 <sup>1</sup> ・高坂 朋宏 <sup>2</sup> ・大和田 守 <sup>3</sup> ・加藤 義臣 <sup>4</sup> ・中 秀司 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 鳥取大院・持・ <sup>2</sup> 鳥取大・農・ <sup>3</sup> 国立科学博物館・ <sup>4</sup> 国際基督教大）
PS07	
PS08	ツツジに発生するコナジラミ類の生態とそれらの土着寄生蜂 ○清水 魁斗 <sup>1</sup> ・大井田 寛 <sup>1</sup> ・多々良 明夫 <sup>2</sup> ・大友 悠平 <sup>1</sup> ・松本 若葉 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 法政大学・ <sup>2</sup> 静岡農林環境専門職大）
PS09	市街地の隔離された緑地におけるゴミシ類（コウチュウ目オサムシ科）の種構成と翅型、飛翔筋 ○林 大祐 <sup>1</sup> ・宗 祥史 <sup>1</sup> ・渋谷 園実 <sup>2</sup> ・徳田 誠 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 佐賀大学農学部・ <sup>2</sup> 東京大学農学部）
PS10	在来および近縁外来ハムシにおける産卵基質選好性の差は在来種に不利な資源競争をもたらしうる ○野村 夏希 <sup>1</sup> ・笠井 敦 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 岐阜連大・農・応用昆虫・ <sup>2</sup> 静岡大院・応用昆虫）
PS11	ゼニゴケにとって食害は損ばかりなのか？ 一植食者による分布拡大 ○松原 芳乃 <sup>1</sup> ・小澤 理香 <sup>2</sup> ・松井 健二 <sup>3</sup> ・高林 純示 <sup>2</sup> ・山岸 健三 <sup>1</sup> ・上船 雅義 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 名城大農・ <sup>2</sup> 京大生態研・ <sup>3</sup> 山口大院創成科学（農））
PS12	国内の森林から発見された幼生生殖タマバエの同定および発育増殖特性 ○古川 晶啓 <sup>1</sup> ・澤畠 拓夫 <sup>2</sup> ・湯川 淳一 <sup>3</sup> ・徳田 誠 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 佐賀大学・農学部・ <sup>2</sup> 近畿大学・農学部・ <sup>3</sup> 九州大学・農学部）
PS13	在来寄生蜂の種内干渉への外来寄生蜂および寄主密度の影響 ○張 耀卓 <sup>1</sup> ・靳 正雅 <sup>2</sup> ・津田 みどり <sup>3</sup> （ <sup>1</sup> 九州大学・生物資源環境科学府・ <sup>2</sup> 華南農業大学・ <sup>3</sup> 九州大学農学研究院）
PS14	ソラマメヒゲナガアブラムシはカラスノエンドウにとって利益となるか ○太田 一樹 <sup>1</sup> ・徳田 誠 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 鹿大院連合農学・ <sup>2</sup> 佐賀大農）
PS15	解毒関連遺伝子に着目した鱗翅目昆虫における食草転換機構の分子生物学的解析 ○宮下 恵 <sup>1</sup> ・宇賀神 篤 <sup>2</sup> ・尾崎 克久 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 大阪大学・理学研究科・ <sup>2</sup> JT生命誌研究館）
PS16	蜂蜜DNAメタバーコーディングを用いた福岡都市圏のミツバチ蜜源植物の調査 ○阿辺 真純 <sup>1</sup> ・藍 浩之 <sup>1</sup> （福岡大・理・地球圏）
PS17	カビによって決まる昆虫とバクテリアの相利共生関係 ○石神 広太 <sup>1,2</sup> ・Jang Seonghan <sup>1,2</sup> ・伊藤 英臣 <sup>2</sup> ・Mergaert Peter <sup>3</sup> ・菊池 義智 <sup>1,2</sup> （ <sup>1</sup> 北海道大学・ <sup>2</sup> 産総研・ <sup>3</sup> CNRS）
PS18	Eurema属(シロチョウ科)におけるWolbachia感染による複雑なmtDNAの遺伝子浸透 ○宮田 真衣 <sup>1</sup> ・野村 昌史 <sup>1</sup> ・陰山 大輔 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 千葉大院 応用昆虫・ <sup>2</sup> 農研機構 生物機能）
PS19	アリにおける腸内共生細菌の新規伝播様式 ○山下 倫桜 <sup>1</sup> ・松浦 優 <sup>2</sup> ・伊藤 英臣 <sup>3</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> ・菊池 義智 <sup>3</sup> ・下地 博之 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 関西学院大学 理工・ <sup>2</sup> 琉球大学 研究生・ <sup>3</sup> 産業技術総合研究所 生物プロセス）
PS20	カメムシ共生器官の形態変化は変態関連遺伝子群によって制御される ○大石 紗友美 <sup>1,2</sup> ・森山 実 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>1,2</sup> （ <sup>1</sup> 東京大学・理学系研究科・ <sup>2</sup> 産総研・生物プロセス）
PS21	ハリガネムシ寄生によるカマキリ宿主の走光性変化とその分子基盤 ○佐々木 淳成 <sup>1</sup> ・Chiu Ming-Chung <sup>1</sup> ・相樂 理嘉 <sup>1</sup> ・大石 紗友美 <sup>1</sup> ・佐藤 拓哉 <sup>1</sup> ・佐倉 緑 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 神戸大院・理）
PS22	寄生蜂と野鳥によるビワコカタカイガラモドキ個体群制御の可能性 ○松本 いづみ <sup>1</sup> ・鈴木 紀之 <sup>1</sup> （高知大学 大学院（農））
PS23	卵寄生蜂ニホンタマゴクロバチ「寄主卵選択に地域差、あるよ」 ○三浦 紅音 <sup>1</sup> ・糸山 享 <sup>1</sup> （明治大院・農）
PS24	カリヤコマユバチ幼虫のCaudal vesicleの形態的特徴と栄養吸収能 ○畠野 健 <sup>1</sup> ・奥村 雄暉 <sup>2</sup> ・澤 友美 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>1,3</sup> （ <sup>1</sup> 皇學館大院・教育・ <sup>2</sup> 鳥羽市立加茂小・ <sup>3</sup> 皇學館大・教育）
PS25	カメムシ類は卵塊中の位置により卵への投資を変化させるか ○奥園 元晴 <sup>1</sup> ・側垣 共生 <sup>2</sup> ・徳田 誠 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 佐賀大学・農学部・ <sup>2</sup> 鹿児島大学・連合農学研究科）
PS26	エサキモンキツノカメムシにおけるメス親の卵塊保護行動の意義 ○西村 航 <sup>1</sup> ・工藤 慎一 <sup>2</sup> ・細川 貴弘 <sup>3</sup> （ <sup>1</sup> 九大院・シス生・ <sup>2</sup> 鳴門教育大・ <sup>3</sup> 九大・理）

ポスター発表（学生会員）

3月24日（水）コアタイム：13:00～15:00

3月25日（木）コアタイム：13:00～14:00

PS27	タイリクヒメナカメムシにおける5齢幼虫の採餌戦略と1齢幼虫の採餌場所選択 ○山腰 美帆 <sup>1</sup> ・山岸 健三 <sup>1</sup> ・上船 雅義 <sup>1</sup> （名城大学農昆虫）
PS28	ヤマトシリアゲの羽ばたき行動は婚姻贈呈におけるディスプレイに使用される ○石原 凌 <sup>1</sup> ・宮竹 貴久 <sup>1</sup> （岡山大学大学院環境生命科学研究科生命環境学専攻）
PS29	アリの柔軟な分業の再構築における日齢とタスク経験の関係 ○田中 康就 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> ・下地 博之 <sup>1</sup> （関西学院大学）
PS30	借坑性ハチ類と樹上活動性アリ類の営巣場所をめぐる関係 ○内藤 空良 <sup>1</sup> ・笠井 敦 <sup>1</sup> （静岡大院・農・応用昆虫）
PS31	ミズタマショウジョウバエの遺伝子変異系統を用いた模様の機能に関する研究 ○丹伊田 拓磨 <sup>1</sup> ・越川 滋行 <sup>1,2</sup> （北大環科院・ <sup>2</sup> 北大地球環境）
PS32	テナガショウジョウバエにおける闘争行動と交尾行動の相互作用 ○豊嶋 直樹 <sup>1</sup> ・網野 海 <sup>1</sup> ・松尾 隆嗣 <sup>1</sup> （東京大学）
PS33	エンドウヒゲナガアブラムシにおける母親の捕食リスク経験が子供の対捕食者形質に及ぼす影響 ○平野 明則 <sup>1</sup> ・長 泰行 <sup>1</sup> （千葉大学大学院・応用昆虫）
PS34	キイカブリダニによるアザミウマの部分的消費行動に同種卵の存在が及ぼす影響 ○伊藤 尚史 <sup>1</sup> ・齋藤 史明 <sup>2</sup> ・長 泰行 <sup>1</sup> （千葉大学院・応用昆虫・ <sup>2</sup> クミアイ化学工業株式会社）
PS35	ハシブトガラスの新奇物体に対する行動的応答：個体変異およびハシボソガラスとの種間比較 ○藤岡 珠代 <sup>1</sup> ・山本 麻希 <sup>1</sup> ・白井 正樹 <sup>2</sup> （長岡技術科学大学大学院・ <sup>2</sup> 電力中央研究所）
PS36	シロアリ創設コロニーの托卵戦略：創設コロニーは他巣から襲撃されることでその巣の女王の座を獲得する ○玉置 千総 <sup>1</sup> ・高田 守 <sup>1</sup> ・松浦 健二 <sup>1</sup> （京都大・農・昆虫生態）
PS37	船頭多くして順風満帆：シロアリの集団行動から卵塊形成場所が決まる ○宇野辺 壱子 <sup>1</sup> ・大竹 遼河 <sup>1</sup> ・松浦 健二 <sup>1</sup> ・庄司 一貴 <sup>2</sup> （京大院・農・昆虫生態・ <sup>2</sup> 都立大院・理・生命科学）
PS38	個体識別観察による人工光源に誘引された昆虫の飛去タイミングの特定 ○笠井 庄希 <sup>1</sup> ・弘中 満太郎 <sup>1</sup> （石川県立大・応用昆虫学）
PS39	室内の薄明・月光照明条件下で観察したイチジクキンウワバの行動 ○元木 彩子 <sup>1</sup> ・野村 昌史 <sup>1</sup> （千葉大院・応用昆虫）
PS40	複数の寄主植物を利用する亜社会性昆虫の繁殖形質に働く自然選択 ○側垣 共生 <sup>1</sup> ・徳田 誠 <sup>2</sup> （鹿児島大学大学院連合農学研究科・ <sup>2</sup> 佐賀大学・農学部）
PS41	
PS42	道しるべフェロモンがアミメアリの匂い学習と生体アミン関連遺伝子の発現に与える影響 ○濱屋 陽平 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> ・伊藤 裕香 <sup>1</sup> ・矢口 甫 <sup>1</sup> ・船曳 優花（関西学院大学・生命科学科）
PS43	トビイロケアリにおける創設期間中の胸嚢の発達と内容物の由来 ○栗原 雄太 <sup>1</sup> ・田中 寛海 <sup>2</sup> ・千葉 雄大 <sup>2</sup> ・宮崎 智史 <sup>1</sup> （玉川大院・農・ <sup>2</sup> 玉川大・農）
PS44	時刻情報に関わる神経ペプチドsNPFのミツバチ脳における発現分布 ○坂口 史音 <sup>1</sup> ・渕側 太郎 <sup>2</sup> （大阪市大・理・ <sup>2</sup> 大阪市大・院理）
PS45	ミツバチ雌の変態期のエクジステロイドによる脳内ドーパミン量への影響 ○小沼 貴文 <sup>1</sup> ・加藤 慎一朗 <sup>2</sup> ・佐々木 謙 <sup>1,2</sup> （玉川大院・農・ <sup>2</sup> 玉川大・農）
PS46	大阪市におけるクロヤマアリ種群の分布～分布を拡大するミナミクロヤマアリ～ ○藤井 星渚 <sup>1</sup> ・三高 雄希 <sup>1</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> （京都工芸繊維大学資源昆虫学研究室）
PS47	Unveiling the Role of DNA Methylation in the Termite <i>Reticulitermes speratus</i> ○Jiaming Chen <sup>1</sup> ・Eisuke Tasaki <sup>1</sup> ・Kenji Matsuura <sup>1</sup> （Kyoto University）
PS48	ヤマトシロアリの巣内二酸化炭素濃度勾配がカースト配置に与える影響 ○塙田 寛生 <sup>1</sup> ・田崎 英祐 <sup>1</sup> ・松浦 健二 <sup>1</sup> （京大院・農・昆虫生態）
PS49	ヤマトシロアリのリポカリン：雌生殖虫で高発現する遺伝子産物の局在と役割 ○小林 あんじ <sup>1</sup> ・矢口 甫 <sup>2</sup> ・鈴木 翔吾 <sup>3</sup> ・前川 清人 <sup>4</sup> （富山大・理・ <sup>2</sup> 関西学院大・理工・ <sup>3</sup> 富山大院・理工・ <sup>4</sup> 富山大・学術・理）
PS50	ヤマトシロアリの性決定遺伝子doublesexの標的の遺伝子探索と発現解析 ○藤原 克斗 <sup>1</sup> ・宮崎 智史 <sup>2</sup> ・前川 清人 <sup>1,3</sup> （富山大学院・理工学教育部・ <sup>2</sup> 玉川大学院・農学部・ <sup>3</sup> 富山大学・学術研究部・理学系）
PS51	ヤマトシロアリの分業体制の解明にむけて：卵運搬行動におけるパーソナリティの発見 ○昇 佑樹 <sup>1</sup> ・松浦 健二 <sup>1</sup> （京都大院・農・昆虫生態）
PS52	ネバダオシロアリにおける兵隊型生殖虫の分化誘導系の確立と網羅的遺伝子発現解析 ○岡 昂輝 <sup>1</sup> ・増岡 裕大 <sup>2</sup> ・縫部 京吾 <sup>3</sup> ・前川 清人 <sup>4</sup> （富山大・理・ <sup>2</sup> 農研機構・ <sup>3</sup> 富山大院・理工・ <sup>4</sup> 富山大・学術・理）
PS53	モリチャバネゴキブリ低標高地個体群と高標高地個体群の発生消長及び発育特性の比較 ○松本 紘輝 <sup>1</sup> ・泉 洋平 <sup>2</sup> （鳥取大学大学院連合農学研究科・ <sup>2</sup> 島根大生物資源科学部）
PS54	日本におけるタバコカスミカメの越冬と野外寄主植物 ○岡本 雄太 <sup>1</sup> ・南 斗真 <sup>1</sup> ・谷中 純貴 <sup>2</sup> ・安田 仁奈 <sup>1</sup> ・日本 典秀 <sup>3</sup> ・安達 鉄矢 <sup>4</sup> （宮崎大農・ <sup>2</sup> 宮崎大農工・ <sup>3</sup> 京都大院農・ <sup>4</sup> 宮崎大TT）

ポスター発表（学生会員）

3月24日（水）コアタイム：13:00～15:00

3月25日（木）コアタイム：13:00～14:00

PS55	ウリウロコタマバエの生活史について ○谷中 稔侑 <sup>1</sup> ・野村 昌史 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 千葉大院・応用昆虫）
PS56	シロオビアカシナガゾウムシの生態と加害によるアシサイへの影響 ○井上 大誠 <sup>1</sup> ・井上 大成 <sup>2</sup> ・野村 昌史 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 千葉大学院・応用昆虫・ <sup>2</sup> 森林総研・多摩森林科学園）
PS57	ツヤアオカメムシにおける休眠誘起の光周反応曲線と光周感受期 ○綱島 彩香 <sup>1</sup> ・糸山 享 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 明治大院・農）
PS58	ナミニクバエ光周性の臨界日長の緯度クライムを生み出す生理機構：概日時計の違いに注目して ○吉永 奈央 <sup>1</sup> ・後藤 慎介 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 大阪市大・院理）
PS59	ホソヘリカメムシにおける幼若ホルモン様活性物質の変態抑制活性 ○中川 貴雄 <sup>1</sup> ・成瀬 祥矢 <sup>1</sup> ・三浦 健 <sup>1</sup> ・水口 智江可 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 名古屋大学大学院生命農学研究科）
PS60	包囲化作用における異物消化後の包囲血球群の挙動について ○長嶋 志帆 <sup>1</sup> ・秦 美咲 <sup>2</sup> ・澤 友美 <sup>3</sup> ・中松 豊 <sup>1,3</sup> （ <sup>1</sup> 皇大院・教・ <sup>2</sup> 蘿野町立蘿野小・ <sup>3</sup> 皇學館大・教）
PS61	昆虫の卵巣発達を利用した新規ゲノム編集法 ○白井 雄 <sup>1</sup> ・大出 高弘 <sup>1</sup> ・大門 高明 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 京都大学大学院・農学研究科）
PS62	Expression analysis of cuticular protein genes in the brown planthopper, <i>Nilaparvata lugens</i> ○Soten CHEA <sup>1</sup> ・Ken MIURA <sup>1</sup> ・Chieka MINAKUCHI <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> Applied Entomol., Nagoya Univ.）
PS63	コクヌストモドキの成虫表皮クチクラ形成における内分泌制御機構 ○宮本 秀勇 <sup>1</sup> ・Sapin Gelyn <sup>1</sup> ・三浦 健 <sup>1</sup> ・水口 智江可 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 名古屋大学・農学部）
PS64	クルミホソガの寄主転換に関わるネジキ有毒成分の探索 ○江原 瑠柄 <sup>1</sup> ・小林 拓矢 <sup>1</sup> ・大島 一正 <sup>2</sup> ・小野 肇 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 京大・院・農・ <sup>2</sup> 京都府大・院・生命環境）
PS65	キタキチョウが非寄主植物に産卵を行う化学的要因 ○金澤 尚希 <sup>1</sup> ・松永 千知 <sup>1</sup> ・太田 伸二 <sup>1</sup> ・大村 尚 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 広島大・院・統合生命）
PS66	スズメノエンドウ・カラスノエンドウに対するキタキチョウ寄主適合性の検討 ○松永 千知 <sup>1</sup> ・金澤 尚希 <sup>1</sup> ・太田 伸二 <sup>1</sup> ・大村 尚 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 広島大・院・統合生命）
PS67	クワゴマダラヒトリ <i>Lemyra imparilis</i> の配偶行動解析 ○服部 夏実 <sup>1</sup> ・松井 悠樹 <sup>2</sup> ・藤井 育 <sup>3</sup> ・中 秀司 <sup>4</sup> （ <sup>1</sup> 鳥取大・院持・ <sup>2</sup> 鳥取大・院連・ <sup>3</sup> 損南大・農・ <sup>4</sup> 鳥取大・農）
PS68	寄生蜂定着因子をチャに誘導するエリシターはチャノコカクモンハマキ雌腹部のどこにあるか？ ○小松崎 優 <sup>1</sup> ・戒能 洋一 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 筑波大学・生命環境）
PS69	クロオオアリにおける女王フェロモン成分の探索 ○森嶋 和樹 <sup>1</sup> ・松田 典子 <sup>1</sup> ・下地 博之 <sup>1</sup> ・若森 晋之介 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 関西学院大・理工）
PS70	クロオオアリの雄特異的物質の生態的機能 一働きアリに対する作用一 ○波部 峻也 <sup>1</sup> ・松山 茂 <sup>2</sup> ・尾崎 まみこ <sup>3</sup> ・秋野 順治 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 京工織大院・ <sup>2</sup> 筑波大・生命環境・ <sup>3</sup> 神戸大・工）
PS71	超広食性ミバエ類の主要寄主植物はなぜ異なるか：繁殖干渉説による検証 ○久岡 知輝 <sup>1</sup> ・Sugeng Santoso <sup>2</sup> ・西田 隆義 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 滋賀県大院・環境・ <sup>2</sup> ボゴール農大）
PS72	チャを利用するチャノミドリヒメヨコバイは近縁ツバキ属植物及びカンキツを利用できない ○幾野 夏末 <sup>1</sup> ・萬屋 宏 <sup>2</sup> ・佐藤 安志 <sup>2</sup> ・望月 雅俊 <sup>2</sup> ・笠井 敦 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 静岡大院・農・応用昆虫・ <sup>2</sup> 農研機構果茶研）
PS73	ジャガイモ中のカルシウム含量がワタアブラムシの産子数に及ぼす影響 ○森本 春暢 <sup>1</sup> ・三上 翔 <sup>1</sup> ・朝倉 幸太 <sup>1</sup> ・小池 正徳 <sup>1</sup> ・木下 林太郎 <sup>1</sup> ・パルタ ジワン <sup>2</sup> ・谷 昌幸 <sup>1</sup> ・相内 大吾 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 帯広畜産大学 環境微生物学研究室・ <sup>2</sup> ウイスコンシン大学マディソン校）
PS74	ハダニとチャの軍拡競走：防御物質としてのカテキン類に対するカンザワハダニの適応機構 ○武田 直樹 <sup>1</sup> ・村上 竜太郎 <sup>1</sup> ・岡村 麻代 <sup>1</sup> ・齋 佳苗 <sup>1</sup> ・新井 優香 <sup>1</sup> ・山本 雅信 <sup>1</sup> ・Noureldin Abuelfadl Ghazy <sup>1</sup> ・鈴木 丈詞 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 農工大院・BASE）
PS75	ウンシュウミカン被害果からのリアルタイムPCR法によるミカンバエDNAの検出 ○大田 祥平 <sup>1</sup> ・菅野 伸哉 <sup>1</sup> ・小野 肇 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 京大・院・農）
PS76	タバココナジラミ新規侵入系統MED Q2の群馬県内における発生状況の確認および表現型の解析 ○萩原 大樹 <sup>1,2</sup> ・土 田 努 <sup>3</sup> ・藤原 亜希子 <sup>1,4</sup> （ <sup>1</sup> 群馬大学・食センター・ <sup>2</sup> 群馬大院・理工学府・ <sup>3</sup> 富山大学・学術研究部・ <sup>4</sup> 理研・CSRS）
PS77	マイマイガ核多角体病ウイルスの感染源の探索 ○佐藤 就将 <sup>1</sup> ・Pavlushin Sergey <sup>2</sup> ・Martemyanov Vyacheslav <sup>2</sup> ・澤畠 拓夫 <sup>3</sup> ・井上 真紀 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 農工大院・農・ <sup>2</sup> RAS・ <sup>3</sup> 近畿大学・農）
PS78	<i>Anopheles stephensi</i> に対する <i>Beauveria bassiana</i> 分生子および菌培養液の経口投与による致死性と感染動態 ○川 翔真 <sup>1</sup> ・小池 正徳 <sup>1</sup> ・嘉穂 洋陸 <sup>2</sup> ・相内 大吾 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 帯広畜産大学・環境微生物学研究室・ <sup>2</sup> 東京慈恵会医科大学・熱帯医学講座）
PS79	随伴アリの行動阻害によるアブラムシ類防除の可能性：ヨモギにおける天敵の保護と強化 ○西山 美咲 <sup>1</sup> ・中平 賢吾 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 酪農大・農業昆虫）
PS80	飼料用トウモロコシ圃場におけるツマジロクサヨトウ地上徘徊性天敵の評価 ○福島 瞽 <sup>1</sup> ・南 斗真 <sup>1</sup> ・大野 和朗 <sup>1</sup> ・石垣 元気 <sup>1</sup> ・安達 鉄矢 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 宮崎大農・ <sup>2</sup> 宮崎大TT）
PS81	天敵温存植物であるソバを利用したチャノミドリヒメヨコバイの生物的防除 ○南 斗真 <sup>1</sup> ・安藤 代那 <sup>1</sup> ・岡本 雄太 <sup>1</sup> ・松井 健太郎 <sup>1</sup> ・大野 和朗・安達 鉄矢 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 宮崎大農・ <sup>2</sup> 宮崎大TT）

ポスター発表（学生会員）

3月24日（水）コアタイム：13:00～15:00

3月25日（木）コアタイム：13:00～14:00

PS82	ツヤケシオオゴミムシダマシ蛹を用いたサビマダラオオホソカタムシ幼虫の飼育（続報）代替宿主の冷凍処理による発育への影響 ○佐藤 翠音 <sup>1</sup> ・糸山 享 <sup>1</sup> （明治大・農）
PS83	タバコカスミカメの代替餌としてペットフードの評価 ○桶本 侑加 <sup>1</sup> ・浦野 知 <sup>2</sup> ・山岸 健三 <sup>1</sup> ・上船 雅義 <sup>1</sup> （名城大学農学部昆虫学研究室・ <sup>2</sup> ペコIPMパイロット）
PS84	マイクロサテライトマーカーを利用したろ地ナシほ場における製剤ミヤコカブリダニの動態解析 ○三川 裕也 <sup>1</sup> ・村瀬 祐子 <sup>2</sup> ・森嶋 佳織 <sup>1</sup> ・逢沢 峰昭 <sup>2</sup> ・上杉 龍士 <sup>3</sup> ・刑部 正博 <sup>4</sup> ・森 光太郎 <sup>5</sup> ・外山 晶敏 <sup>6</sup> ・園田 昌司 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 東京農工大学・連大院・ <sup>2</sup> 宇都宮大学・農・ <sup>3</sup> NARO東北農業研究センター・ <sup>4</sup> 京都大学農学研究科・ <sup>5</sup> 石原産業（株）・ <sup>6</sup> NARO果樹茶業研究部門）
PS85	移動制限条件下でのタバココナジラミにおける振動による密度抑制効果とトマト果実収量への影響 ○柳澤 隆平 <sup>1</sup> ・立田 晴記 <sup>1</sup> ・高梨 琢磨 <sup>2</sup> ・諏訪 竜一 <sup>1</sup> ・小野寺 隆一 <sup>3</sup> （琉球大学・農学部・ <sup>2</sup> 森林総合研究所・ <sup>3</sup> 東北特殊鋼（株））
PS86	侵入害虫ツマジロクサヨトウの加害生態～グリーンそれともホワイト？～ ○中園 佳那 <sup>1</sup> ・ペッチャルン パッチャボン <sup>1</sup> ・阿部 晓 <sup>1</sup> ・安藤 代那 <sup>1</sup> ・安達 鉄矢 <sup>2</sup> ・大野 和朗 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 宮崎大農・ <sup>2</sup> 宮崎大TT）
PS87	畔植生の維持が高めるソバの送粉サービス ○永野 裕大 <sup>1</sup> ・宮下 直 <sup>2</sup> ・滝 久智 <sup>3</sup> ・横井 智之 <sup>1</sup> （筑波大学・院・環境・ <sup>2</sup> 東大・農・ <sup>3</sup> 森林総研）
PS88	アメリカミズアブには生ゴミ腐敗臭を抑制する生理作用がある ○道下 玲奈 <sup>1,2</sup> ・上原 拓也 <sup>2</sup> ・藤井 孝宜 <sup>1</sup> ・霜田 政美 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 日本大・生産工・ <sup>2</sup> 農研機構・生物研）
PS89	タイワンエンマコオロギのエコフィード開発：植物性残渣が成育に及ぼす影響 ○村田 光陽 <sup>1</sup> ・早川 翔大 <sup>2</sup> ・山本 雅信 <sup>3</sup> ・鈴木 丈詞 <sup>3</sup> （農工大・農・ <sup>2</sup> 早大・理工学術院・ <sup>3</sup> 農工大院・BASE）
PS90	DNAメタバーコーディングを用いた草原性クモ群集の被食-捕食ネットワークの季節動態と種特異性の評価 ○鈴木 紗也華 <sup>1</sup> ・東樹 宏和 <sup>1</sup> （京都大学生態学研究センター）
PS91	なぜアシノワハダニはUV-Bに強いのか？：ハダニ種間におけるUV-B耐性が異なる要因の検討 ○鈴木 光樹 <sup>1</sup> ・菊田 真吾 <sup>1</sup> ・北嶋 康樹 <sup>1</sup> （茨城大院・農）

ポスター発表（一般会員）

3月24日（水）コアタイム：13:00～15:00

3月25日（木）コアタイム：13:00～14:00

PG01	ツヤオオズアリのワーカーにおける頭部肥大化に対するホルモンの作用 ○矢口 甫 <sup>1</sup> ・山本 芽実 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> （関西学院大学・理工学部）
PG02	2種の植食者に対するセイタカアワダチソウの誘導反応の遺伝子型間の違い ○塙尻 かおり <sup>1</sup> ・原田 将和 <sup>1</sup> ・東 晃大 <sup>1</sup> ・片山 昇 <sup>3</sup> ・大串 隆之 <sup>2</sup> （龍谷大学・農学部・ <sup>2</sup> 京都大学・生態学研究センター・ <sup>3</sup> 小樽商科大学・商学部）
PG03	ホソヘリカメムシの寄主操作によるダイズの青立ち誘発の可能性 ○大場 裕太郎 <sup>1</sup> ・鄭 紹輝 <sup>1</sup> ・鈴木 義人 <sup>2</sup> ・徳田 誠 <sup>1</sup> （佐賀大学・農学部・ <sup>2</sup> 茨城大学・農学部）
PG04	渓流に生育・生息する藻類やヨコエビからみた渓流内に入り込む光の状態について ○吉村 真由美 <sup>1</sup> ・久保田 多余子 <sup>1</sup> （森林総合研究所）
PG05	複数種の昆虫による異時的な訪花がニガウリの果実生産に与える影響 ○池本 美都 <sup>1</sup> ・横井 智之 <sup>1</sup> ・河野 勝行 <sup>2</sup> （筑波大学・農研機構野菜花き研究部門）
PG06	下等シロアリの腸内微生物叢改変の試み ○徳田 岳 <sup>1</sup> ・関根 麗子 <sup>1</sup> （琉球大学・熟生研）
PG07	ミツバチの味覚応答に対する腸内細菌叢の影響の解析 ○末次 翔太 <sup>1</sup> ・宮崎 亮 <sup>1,2,3</sup> （産業技術総合研究所・生物プロセス・ <sup>2</sup> 産業技術総合研究所・CBBD-OIL・ <sup>3</sup> 筑波大・生命環境）
PG08	コバネイナゴの寄生バエ～今後の展望～ ○渡邊 紗織 <sup>1</sup> ・長谷川 英祐 <sup>2</sup> （京大フィールド研・ <sup>2</sup> 北大農）
PG09	宮城県におけるコバネイナゴの寄生バエ ○中村 茂雄 <sup>1</sup> ・桜村 結友 <sup>1</sup> ・鶴岡 莉子 <sup>1</sup> （宮城大学）
PG10	シイタケ菌をめぐる菌類－菌食者－寄生バチ相互作用系にて機能する情報化学物質 ○向井 裕美 <sup>1</sup> ・所 雅彦 <sup>1</sup> ・北島 博 <sup>1</sup> ・楠本 倫久 <sup>1</sup> ・橋田 光 <sup>1</sup> （国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）
PG11	被食者の個体群密度が捕食回避行動に及ぼす影響 ○松村 健太郎 <sup>1,2</sup> （香川大学農学部・ <sup>2</sup> 日本学術振興会特別研究員PD）
PG12	オンブバッタの雄における配偶者防衛のコスト ○井出 純哉 <sup>1</sup> （久留米工大・工・教育）
PG13	トラマルハナバチのカボチャへの訪花行動に及ぼす花蜜の影響 ○釘宮 聰一 <sup>1</sup> ・前田 太郎 <sup>2</sup> ・平岩 将良 <sup>2</sup> （農研機構・中央農研・ <sup>2</sup> 農研機構・農環研）
PG14	ナミニクバエ終齢幼虫の脳における神経ペプチドPDFおよびsNPFの分布 ○渕側 太郎 <sup>1</sup> ・後藤 慎介 <sup>1</sup> （大阪市立大学 大学院理学研究科）
PG15	社会性アラムシの巣内ホメオスタシスを基軸とした表現型多型の制御機構 ○柴尾 晴信 <sup>1</sup> ・沓掛 磨也子 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>3</sup> ・松山 茂 <sup>1</sup> （筑波大学・生命環境・ <sup>2</sup> 産総研・生物システム・ <sup>3</sup> 産総研・生物プロセス）
PG16	トゲオオハリアリは、巣内で概日活動リズムを示さない ○藤岡 春菜 <sup>1</sup> ・阿部 真人 <sup>2</sup> ・岡田 泰和 <sup>3</sup> （大阪市大・院理・ <sup>2</sup> RIKEN AIP・ <sup>3</sup> 都立大 理学・生命科学）
PG17	社会性アラムシの母性効果を介したカースト制御と季節適応 ○松山 茂・沓掛 磨也子 <sup>2</sup> ・深津 武馬 <sup>3</sup> ・柴尾 晴信 <sup>1</sup> （筑波大学・生命環境系・ <sup>2</sup> 産総研・生物システム・ <sup>3</sup> 産総研・生物プロセス）
PG18	キアシナガバチのワーカーによる非血縁コロニーへのドリフトとその適応的意義 ○西村 正和 <sup>1</sup> ・小野 正人 <sup>1</sup> （玉川大・院・農）
PG19	モモ・スモモにおけるクビアカツヤカミキリの蛹室形成位置 ○春山 直人 <sup>1</sup> ・八板 理 <sup>1</sup> ・福田 充 <sup>1</sup> （栃木県農業試験場）
PG20	マツノマダラカミキリ由来培養細胞の樹立 ○渡邊 和代 <sup>1</sup> ・高務 淳 <sup>2</sup> ・相川 拓也 <sup>3</sup> ・粥川 琢巳 <sup>1</sup> （農研機構・生物研・ <sup>2</sup> 森林総研・ <sup>3</sup> 森林総研・東北）
PG21	植物のみどりの香りがコナガ幼虫の成長を抑制する ○小澤 理香 <sup>1</sup> ・塙尻 かおり <sup>2</sup> ・中尾 拓磨 <sup>2</sup> ・藤田 涼平 <sup>2</sup> ・松井 健二 <sup>3</sup> ・高林 純示 <sup>1</sup> （京大生態研・ <sup>2</sup> 龍谷大農・ <sup>3</sup> 山口大院創成科学（農））
PG22	ジアミド系殺虫剤に対するマシエンクイガの感受性低下：鳥取県2地域の事例 ○吉村 英翔 <sup>1</sup> ・奥谷 恭代 <sup>2</sup> ・中 秀司 <sup>3</sup> ・田渕 研 <sup>1</sup> （農研機構東北農研・ <sup>2</sup> 鳥取農試・ <sup>3</sup> 鳥取大・農）
PG23	秋田県におけるアカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメのジノテフランに対する感受性 ○新山 徳光 <sup>1</sup> ・高橋 良知 <sup>1</sup> （秋田県農業試験場）
PG24	IoT自動撮影カメラを装着した粘着式フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの発生消長調査の検討 ○金子 修治 <sup>1</sup> ・城塙 可奈子 <sup>1</sup> ・磯部 武志 <sup>1</sup> （大阪環農水研）
PG25	状態空間モデルによる雑草地アカスジカスミカメ密度と気候・景観の関係の検討 ○吉岡 明良 <sup>1</sup> ・山崎 和久 <sup>2</sup> ・大澤 剛士 <sup>3</sup> ・田渕 研 <sup>4</sup> ・高田 まゆら <sup>5</sup> （国環研・ <sup>2</sup> 科博・ <sup>3</sup> 都立大・ <sup>4</sup> 農研機構東北農研・ <sup>5</sup> 中央大）
PG26	タイにおけるツマジロクサヨトウの卵塊数に着目した圃場への侵入頻度推定 ○小堀 陽一 <sup>1</sup> ・Lapbanjob Siwilai <sup>2</sup> ・Punyawattoe Pruetthichat <sup>3</sup> ・Chaowattanawong Pichate <sup>3</sup> ・Sudhi-aromna Sarute <sup>3</sup> （国際農林水産業研究センター・ <sup>2</sup> ナコンサンラーム作物研究センター・ <sup>3</sup> タイ農業局植物保護研究開発部）
PG27	食品害虫の死亡時期推定に向けた定量PCRによるRNAの死後残存量の調査 ○松元 咲樹 <sup>1</sup> ・北澤 裕明 <sup>1</sup> ・宮ノ下 明大 <sup>1</sup> ・永田 雅靖 <sup>1</sup> （農研機構・食品研究部門）
PG28	開放系における候補天敵の性能検証：ミカンコナジラミ・クロソヤテントウ系の非線形時系列解析 ○鈴木 紀之 <sup>1</sup> ・川津 一隆 <sup>2</sup> ・金子 修治 <sup>3</sup> （高知大学・ <sup>2</sup> 東北大・ <sup>3</sup> 大阪環農水研）

ポスター発表（一般会員）

3月24日（水）コアタイム：13:00～15:00

3月25日（木）コアタイム：13:00～14:00

PG29	クビアカツヤカミキリ羽化成虫の接着材を用いた防除の可能性 ○滝 久智 <sup>1</sup> ・田村 繁明 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 森林総合研究所）
PG30	リンゴ果実の成熟度及び収穫後日数によるモモシンクイガ幼虫の発育率の比較 ○三代 浩二 <sup>1</sup> ・岸本 英成 <sup>1</sup> ・屋良 佳緒利 <sup>1</sup> ・柳沼 勝彦 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 農業研機構果樹茶部門）
PG31	秋冬ネギ栽培におけるネギアザミウマに対するIPM防除の確立に向けた取り組み ○清水 健 <sup>1</sup> ・中井 善太 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 千葉農林総研セ・ <sup>2</sup> 東京農工大連合農学研究科）
PG32	傾斜のあるカキ圃場におけるフジコナカイガラムシ交信攪乱剤の防除効果 ○伊丹 春衣 <sup>1</sup> ・菊原 賢次 <sup>1</sup> ・清水 信孝 <sup>1</sup> ・手柴 真弓 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 福岡県農林業総合試験場病害虫部）
PG33	トビイロウンカの多発生年における乾田直播栽培水稻での発生状況 ○清水 信孝 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 福岡県農林業総合試験場）
PG34	花を混植してハナバチを誘引する一カボチャとウメの事例一 ○平岩 将良 <sup>1</sup> ・江畠 真美 <sup>2</sup> ・前田 太郎 <sup>1</sup> （ <sup>1</sup> 農研機構・農環研・ <sup>2</sup> 和歌山果樹試うめ研）
PG35	2種ミツバチの低温下における訪花活動の比較 ○前田 太郎 <sup>1</sup> ・平岩 将良 <sup>1</sup> ・江畠 真美 <sup>2</sup> （ <sup>1</sup> 農研機構 農環研・ <sup>2</sup> 和歌山県果樹試験場 うめ研究所）

小集会プログラム 年3月25日(木) 14:15~16:00

A会場	B会場	C会場	D会場
<b>W11</b> 植物-昆虫の相互作用における最近の話題 世話人:戒能洋一・高林純示・米谷衣代	<b>W12</b> カイコと近縁蛾類の遺伝資源とゲノム-さらなる活用をめざすNBRPの取組み(2) 世話人:嶋田 透	<b>W13</b> 第3回イモゾウムシ研究会～初めてのオンライン、数理から共生菌、そして射精物へ～ 世話人:日室千尋・熊野 了州	<b>W14</b> 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション2021 世話人:山本敦司・島 克弥
<b>W1101</b> ○Torsten Meiners <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Julius Kühn Institute, GER) Chemical diversity in plant-insect interactions as a tool in biological control	<b>W1201</b> ○伴野 豊 <sup>1</sup> ・福森 寿善 <sup>1</sup> ・藤井 告 <sup>1</sup> ・梶浦 善太 <sup>2</sup> ・嶋田 透 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 九州大学大学院農学研究院・ <sup>2</sup> 信州大学繊維学部・ <sup>3</sup> 学習院大学理学部) 世界最高水準のカイコリソースの魅力	<b>W1301</b> ○日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・熊野 了州 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 琉球産経(株)・ <sup>2</sup> 沖縄県病害虫防除技術センター・ <sup>3</sup> 琉球大学農学部・ <sup>4</sup> 帯広畜産大学) イリムサー知とーんが?	<b>W1401</b> ○山本 敦司 <sup>1,3</sup> ・島 克弥 <sup>2,4</sup> ( <sup>1</sup> 日本曹達㈱・ <sup>2</sup> エフエムシー㈱・ <sup>3</sup> 農林害虫防除研・ <sup>4</sup> 抵抗性対策TF・ <sup>4</sup> 農業工業会・J IRAC) 論点! 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション2021
<b>W1102</b> ○Monika Hilker <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Freie Universitaet Berlin, GER) Priming of plant defense against herbivory by insect egg deposition	<b>W1202</b> ○藤井 告 <sup>1</sup> ・柿野 耕平 <sup>2</sup> ・李在萬 <sup>1</sup> ・日下部 宜宏 <sup>2</sup> ・伴野 豊 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 九州大学大学院 農学研究院 昆虫産業創生学研究室・ <sup>2</sup> 九州大学大学院 生物資源環境科学府 昆虫ゲノム科学研究室・ <sup>3</sup> 九州大学大学院 農学研究院 遺伝子資源開発研究センター) 混合サンプルのRNA-seq解析によるカイコの致死遺伝子の迅速同定	<b>W1302</b> ○濱谷 杏子 <sup>1</sup> ・菊池 義智 <sup>2,3</sup> ・熊野 了州 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 帯広畜産大学・昆虫生態・ <sup>2</sup> 北海道大学・農学部・ <sup>3</sup> 産総研・北海道) イモゾウムシの共生細菌が宿主の交尾行動に与える影響	<b>W1402</b> ○井上 一 <sup>1</sup> ・坂田 寛樹 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> JAながみね・ <sup>2</sup> JAながみね) 生産者に好評:柑橘類チャノキロアザミウマ多発地域での取り組み
	<b>W1203</b> ○梶浦 善太 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 信州大学学術研究院繊維学系) 野蚕遺伝資源の紹介とヤママユ( <i>Antheraea yamamai</i> )の保存方法について	<b>W1303</b> ○田中 愛梨 <sup>1</sup> ・日室 千尋 <sup>2,3,4</sup> ・熊野 了州 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 帯畜大院・昆虫生態・ <sup>2</sup> 沖防セ・ <sup>3</sup> 琉球産経(株)・ <sup>4</sup> 琉球大) イモゾウムシの雌雄の血縁関係が再交尾に及ぼす影響	<b>W1403</b> ○森川 由浩 <sup>1</sup> ・浴野 祥予 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 玉名農業協同組合・ <sup>2</sup> 熊本玉名普及・振興課) RACコードを導入したローテーション防除:冬春トマトでのタバココナジラミ/バイオタイプQに対する薬剤抵抗性管理の取り組み
	<b>W1204</b> ○李 允求 <sup>1</sup> ・嶋田 透 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 学習院大学) エリサンとシンジュサンの交雑後代で生じる赤繭形質の発現を支配する遺伝基盤の解明	<b>W1304</b> ○池川 雄亮 <sup>1,2,3</sup> ・伊藤 公一 <sup>4</sup> ・日室 千尋 <sup>1,2,3</sup> ・本間 淳 <sup>1,2,3</sup> ( <sup>1</sup> 琉球産経㈱・ <sup>2</sup> 沖縄県病害虫防除技術センター・ <sup>3</sup> 琉球大学・ <sup>4</sup> ブリティッシュコロンビア大学) イモゾウの不妊虫放飼はオスのみがよいか?両性がよいか?	

E会場	F会場	G会場
<b>W15</b> 沼田英治博士・小滝豊美博士退職記念集会「カメムシの生理学的研究:わかったこと、わかっていないこと」 世話人:西村知良・粥川琢巳	<b>W16</b> 第28回日本ICIPE協会研究報告会—アフリカ昆虫学のタベ 世話人:足達太郎	<b>W17</b> アリをめぐる生物種間の相互作用 2021 (JIUSSI共催) 世話人:上田昇平・北条 賢
<b>W1501</b> ○小滝 豊美 <sup>1</sup> (農研機構生物機能利用研究部門) チヤバネアオカムシにおける成虫休眠と生殖の研究から	<b>W1601</b> ○コルネット リシャー <sup>1</sup> ・SHAYKHUTDINOV Nurislam <sup>2</sup> ・グセフ オレグ <sup>3</sup> ・黄川田 隆洋 <sup>1</sup> ・奥田 隆 <sup>4</sup> (農研機構・カザン大学・ <sup>3</sup> 理研・ <sup>4</sup> Nemli Project LLC) アフリカの半乾燥地帯におけるユスリカ類の乾燥耐性の進化について	<b>W1701</b> ○山本 哲也 <sup>1</sup> ・市野 隆雄 <sup>1,2</sup> (信州大学理学部・ <sup>2</sup> 信州大山岳研) 日本産クチナガオオアブラムシ属とその寄生蜂の寄主特異性と系統的多様化
<b>W1502</b> ○沼田 英治 <sup>1</sup> (京都大学・大学院理学研究科) なぜカメムシを研究してきたのか	<b>W1602</b> ○藤岡 悠一郎 <sup>1</sup> (九州大学・比較社会文化研究院) 変容するアフリカの昆虫食文化:ナミビア農牧社会の事例	<b>W1702</b> ○大谷 郁生 <sup>1</sup> ・上田 昇平 <sup>1</sup> ・乾 陽子 <sup>2</sup> ・森地 重博 <sup>3</sup> ・平井 規央 <sup>1</sup> (大阪府大院・生命・ <sup>2</sup> 大教大・教養・ <sup>3</sup> 日本鱗翅学会) 絶滅危惧種キマダラルリツバメの寄主アリ特異性と大阪個体群の衰亡要因の解明
	<b>W1603</b> ○足達 太郎 <sup>1</sup> (東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科) 越境性昆虫の社会的側面	<b>W1703</b> ○松本 恭士 <sup>1</sup> ・下地 博之 <sup>1</sup> ・北條 賢 <sup>1</sup> (関西学院大学・理工) アリの栄養状態がシジミチョウとの共生に与える影響

小集会プログラム 年3月26日(金) 13:00~14:45

A会場	B会場	C会場	D会場
	<p><b>W21</b> 昆虫免疫夜話 VI 世話人:芳山 三喜雄・古川誠一</p>	<p><b>W22</b> 社会性昆虫の化学生態学 世話人:三高 雄希・田崎 英祐</p>	<p><b>W23</b> イネウンカ類個体群の再生産過程とウンカシヘンチュウの免疫的活かし方 世話人:日鷹一雅・浦野 知・星野滋</p>
	<p><b>W2101</b> ○木村 澄<sup>1</sup> (農研機構畜産研究部門) ミツバチのコロニー防御メカニズム</p> <p><b>W2102</b> ○宇賀神 篤<sup>1</sup> (JT生命誌研究館) 発熱はツラいが役に立つ—二ホンミツバチの集団防衛行動「熱殺蜂球形成」—</p>	<p><b>W2201</b> ○秋野 順治<sup>1</sup> (京都工芸繊維大学 生物資源フィールド科学研究部門) セミオケミカル—“いきもの”を知るには欠かせないコミュニケーションツール</p> <p><b>W2202</b> ○岩井 碩慶<sup>1,2</sup>・河野 暢明<sup>1,2</sup>・富田 勝<sup>1,2,3</sup>・堀川 大樹<sup>1,2</sup>・荒川 和晴<sup>1,2,3</sup> (慶大・先端生命研・<sup>2</sup>慶大院・政策・メディア・先端生命・<sup>3</sup>慶大・環境情報) 社会寄生種トゲアリ (<i>Polyrhachis lamellidens</i>) が行う化学偽装とその偽装機構の解明</p> <p><b>W2203</b> ○中林 ゆい<sup>1</sup>・大島 一正<sup>1</sup> (京都府大・院生命環境) アリ随伴性シジミチョウ幼虫は天敵がない環境下で共生関係を解消するのか?</p> <p><b>W2204</b> ○三高 雄希<sup>1</sup> (京都工芸繊維大学・資源昆虫学) 再利用と文脈依存的な成分追加で生じるシロアリのフェロモン</p> <p><b>W2205</b> ○田崎 英祐<sup>1,2</sup>・井内 良仁<sup>2,3</sup>・松浦 健二<sup>1</sup> (京都大学大学院・昆虫生態・<sup>2</sup>鳥取大学大学院・連合農学・<sup>3</sup>山口大学大学院・創成科学) 社会性昆虫の個体を超えた代謝ネットワーク研究に挑む</p>	<p><b>W2301</b> ○浦野 知<sup>1</sup>・井上 栄明<sup>2</sup> (株式会社ベコIPM・<sup>1</sup>三井化学アグロ株式会社) イネウンカ類個体群の再生産過程と天敵利用戦略</p> <p><b>W2302</b> ○吉田 睦浩<sup>1</sup> (農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター) 九州地域におけるウンカシヘンチュウの生息状況とイネウンカ類に対する寄生状況</p> <p><b>W2303</b> ○日鷹 一雅<sup>1</sup> (愛媛大学大学院農学研究科) 土着天敵ウンカシヘンチュウ、愛媛県27年ぶり再発見から考える有機農業拡大政策での免疫的活かし方</p>

E会場	F会場	G会場